
文学研究科

学位授与の方針

教育課程

履修要項

免許・資格の取得

学位授与の方針

文学研究科

【博士前期課程】

人文学について広範な学識を有し、専門分野において高度な知識を身に付けている。

- (1) 科学的批判精神と洞察力を持って、人文学に関わる諸問題を深く追求することができる。
- (2) 人文学について、高度に専門的な文献・資料を読み解き、的確な表現力・コミュニケーション力を持って研究成果を発表することができる。
- (3) 人文学の専門知識と技能を生かし、総合的な判断力と創造的な研究能力を持って広く社会に貢献することができる。

【博士後期課程】

- (1) 人文学について広範な学識を有し、専門分野において博士の学位を取得するに足る深い学術的知見を獲得している。
- (2) 博士課程前期で培った調査力・分析力・考察力を更に発展させ、独創的で自立した研究活動ができる。
- (3) 人文学について、高度に専門的な文献・資料を読み解き、的確な表現力・コミュニケーション力を持って研究成果を発表することができる。
- (4) 人文学の専門知識と技能を生かし、総合的な判断力及び創造的な研究能力を持って広く社会に貢献することができる。

1) 日本語学日本文学専攻

【博士前期課程】

幅広く体系的な知識、情報を処理する技能、国際化社会の中で主体的に活躍できる資質を身に付けていることが求められる。

次の要件を満たした学生に対し、修士の学位を授与する。

- (1) 日本語学・日本文学・国語教育学及び関連諸学について広範な学識を有し、専門分野において修士の学位を取得するに足る知識を身に付けている。
- (2) 科学的批判精神と洞察力を持って思考、判断し、日本文学・日本語学及び関連諸学に関わる諸問題を探究することができる。
- (3) 日本語学・日本文学・国語教育学及び関連諸学に深い関心を抱き、その研究に強い意欲を持ち、推進することができる。
- (4) 日本語学・日本文学・国語教育学及び関連諸学について、高度に専門的な文献・資料を読み解き、調査研究能力を身に付け、的確な表現力・コミュニケーション力を持って社会に貢献することができる。

【博士後期課程】

高度な専門知識を身に付け、研究能力及び豊かな学識を身に付けることを目標にしている。各専攻分野における客観性、論理性及び独創性などを備え、優れた見識を持って多様な問題に積極的に取り組む能力を有することが求められる。これらを教育目標とし、修得した者に対し、博士の学位を授与する。

- (1) 日本語学・国語教育学、日本文学及び関連諸学について広範な学識を有し、専門分野において博士の学位を取得するに足る深い学術的知見を獲得することができる。
- (2) 博士前期課程で培った調査力・分析力・考察力を更に発展させ、独創的で自立した研究活動ができる。
- (3) 博士前期課程で研究したことへの深い関心を維持し、その更なる研究に強い意欲を持ち、推進することができる。
- (4) 日本語学・国語教育学、日本文学及び関連諸学について、高度に専門的な文献・資料を読み解き、的確な表現力・コミュニケーション力を持って学術的な研究成果を発表し、学問の発展に寄与することができる。

2) 英語学英米文学専攻

【博士前期課程】

幅広く体系的な知識、情報を処理する技能、国際化社会の中で主体的に活躍できる資質を身に付けていることが求められる。これらの要件を満たした学生に対し、修士の学位を授与する。

- (1) 語学・英米文学・英語教育学及び関連諸学について広範な学識を有し、専門分野において修士の学位を取得するに足る知識を身に付けている。
- (2) 論理的な思考力を持ち、英米を中心とした英語圏の言語、文学、歴史及び文化に関わる諸問題を深く追究できる。

- (3) 英米を中心とした英語圏の言語，文学，歴史及び文化の諸問題について高い関心を有している。
- (4) 高度な英語能力と深い専門知識を生かして，教育現場等で，広く社会に貢献しようとする積極的姿勢を有している。
- (5) 英語で専門的な資料を読み解き，情報収集を行う能力を持っている。
- (6) 英語論文によって個人の考えを表現し，広く発信する能力を身に付け，自分の考えを他者に的確に伝えるための論理的思考力と的確な表現力・コミュニケーション力を持って社会に貢献できる。

【博士後期課程】

高度な専門知識を身に付け，研究能力及び豊かな学識を身に付けることを目標にしている。各専攻分野における客観性，論理性及び独創性などを備え，優れた見識を持って多様な問題に積極的に取り組む能力を有することが求められる。これらを教育目標とし，修得した者に対し，博士の学位を授与する。

- (1) 英語学・英米文学・英語教育学（言語・英語研究，イギリス文学・イギリス文化研究，アメリカ文学・アメリカ文化研究，英語教育研究）及び関連分野における高度で専門的な知識を身に付けている。
- (2) イギリス文学，イギリス文化，アメリカ文学，アメリカ文化，言語・英語研究の各専門分野において，自らの思考力・分析力・考察力によって独創的で自立した研究活動ができる。
- (3) 英米を中心とした英語圏の文学，歴史，言語，文化の諸問題について，自ら問題提起を行い，それを追究する意欲を持っている。
- (4) 高度な英語能力と深い専門知識を，専門の研究分野の発展に還元しようとする積極的姿勢を有している。
- (5) 研究によって到達した独自の考えを，学位論文にまとめる論理的思考力，表現力を有している。

3) 教育学専攻

教育学，心理学，教育実践又は臨床心理学，心理臨床実践に関する深い学問的知識と高度な研究能力を身に付け，それを学校や地域の教育又は臨床心理の課題に対応できる高い専門性と実践的視野を兼ね備えた資質と能力を備えている者に対し，学位を授与する。

【博士前期課程】

教育学・心理学コース及び臨床心理学コース（両コースは，博士前期課程のみ）のいずれかのコースにおいて，所定の単位を修得し，修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び試験に合格して，以下の知識・技能，思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的な研究態度を身に付けた者に対し，修士の学位を授与する。

- (1) 教育学や心理学の理解に関する高度な知識・技能を修得し，それらを地域社会・家庭・学校・企業や公共機関等に還元して総合的に活用することができる。
- (2) グローバルな視野に立って自ら考え，周囲の人との円滑なコミュニケーション能力及び豊かな表現能力を発揮し，実際的な問題解決を通して社会に貢献することができる。
- (3) 教育学の学びに関心をもち，未解決の課題に主体的に取り組む態度と，グローバル社会に対応して活躍しようとする意欲を培うことができる。

【博士後期課程】

博士後期課程では，大学において教育を担う研究者及び教育行政において教育政策を担う高度な専門家を養成することを目指して，所定の単位を修得し，必要な研究指導を受けて博士論文の審査に合格し，次の知識・技能，思考力・判断力・表現力等の能力及び主体的，創造的な研究態度を身に付けた者に対し，博士の学位を授与する。

- (1) 研究者として活動するために必要とされる教育学，認知・発達・社会・応用・臨床の心理学に関する卓越した知識・技能を修得し，それらを地域社会・家庭・学校・企業や公共機関等に還元して総合的に活用することができる。
- (2) グローバルな視野に立って自ら考え，周囲の人との円滑なコミュニケーション能力と効率的で的確な表現能力を発揮し，実際的な問題解決を通して社会に貢献することができる。
- (3) 自らの学びに責任を持ち，高い職業的倫理観の下，未解決の課題に主体的かつ創造的に取り組む態度と，グローバル社会に対応して先導的に活躍しようとする意欲を持続することができる。

教 育 課 程
—日本語学日本文学専攻〔博士前期課程〕—

研 分 野 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コード	単 位 数	週時間数		担 当 者	履 修 方 法
					前 期	後 期		
日 本 語 学	日本語史特論	L	H58350	2	2		教 授 江口 泰生	1 修了要件の「所定の授業科目を30単位以上修得」は、次により履修すること。なお、授業科目の履修に当たっては、研究指導教員の指導を受けること。 (1)研究指導教員の所属する研究分野（以下「所属研究分野」という。）から、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」各1単位及び研究指導教員の担当する「特別研究Ⅲ・Ⅳ」各1単位を含め、10単位以上を修得すること。 (2)所属研究分野以外の2研究分野から各4単位以上を修得すること。 (3)共通科目から4単位以上を修得した場合は、前号の規定にかかわらず、1研究分野4単位以上を修得したものとみなすことができる。 (4)他専攻の授業科目の単位を修得した場合は、4単位まで、修了要件の30単位に含めることができる。ただし、この場合の単位は、第2号に規定する1研究分野4単位を修得したものとみなすことはできない。 2 修士論文又は特定の課題についての研究成果は、研究指導教員の研究指導を受けた上で提出すること。 3 氏名横の「*」は研究指導補助教員を示す。
	日本語文学特論	L	H59150	2		2	教 授 川岸 克己	
	日本語音韻学特論	L	H54450	2	2		教 授 川岸 克己	
	日本語方言学特論	L	H59250	2		2	教 授 江口 泰生	
	日本語史演習	S	H58300	1	2		教 授 江口 泰生	
	日本語文学演習	S	H59100	1		2	教 授 川岸 克己	
	日本語音韻学演習	S	H54400	1	2		教 授 川岸 克己	
	日本語方言学演習	S	H59200	1		2	教 授 江口 泰生	
	日本語学特別研究Ⅰ	S	H57700	1	2		教 授 江口 泰生 教 授 川岸 克己 教 授 宮岸 哲也	
	日本語学特別研究Ⅱ	S	H57701	1		2	教 授 江口 泰生 教 授 川岸 克己 教 授 宮岸 哲也	
	日本語学特別研究Ⅲ	S	H57702	1	2		教 授 江口 泰生 教 授 川岸 克己 教 授 宮岸 哲也	
	日本語学特別研究Ⅳ	S	H57703	1		2	教 授 江口 泰生 教 授 川岸 克己 教 授 宮岸 哲也	
日 本 文 学	古代日本文学特論A	L	H33900	2	2		教 授 古瀬 雅義	
	古代日本文学特論B	L	H33901	2		2	教 授 古瀬 雅義	
	中世日本文学特論A	L	H50900	2			(選考中)	
	中世日本文学特論B	L	H50901	2			(選考中)	
	近世日本文学特論A	L	H30360	2	2		教 授 島田 大助	
	近世日本文学特論B	L	H30361	2		2	教 授 島田 大助	
	近代日本文学特論A	L	H30460	2	2		教 授 外村 彰	
	近代日本文学特論B	L	H30461	2		2	教 授 外村 彰	
	古代日本文学演習A	S	H33700	1	2		教 授 古瀬 雅義	
	古代日本文学演習B	S	H33701	1		2	教 授 古瀬 雅義	
	中世日本文学演習A	S	H50700	1			(選考中)	
	中世日本文学演習B	S	H50701	1			(選考中)	
	近世日本文学演習A	S	H30300	1	2		教 授 島田 大助	
	近世日本文学演習B	S	H30301	1		2	教 授 島田 大助	
	近代日本文学演習A	S	H30400	1	2		教 授 外村 彰	
	近代日本文学演習B	S	H30401	1		2	教 授 外村 彰	
	日本文化論特論A	L	H62510	2	2		准教授 安田 容子	
	日本文化論特論B	L	H62511	2		2	准教授 安田 容子	
	日本文化論演習A	S	H62010	1	2		准教授 安田 容子	
	日本文化論演習B	S	H62011	1		2	准教授 安田 容子	
	日本文学特別研究Ⅰ	S	H61850	1	2		教 授 古瀬 雅義 教 授 富永 一登 教 授 内田 誠一 教 授 島田 大助 教 授 外村 彰 准教授 増田 知之 准教授 安田 容子	
	日本文学特別研究Ⅱ	S	H61851	1		2	教 授 古瀬 雅義 教 授 富永 一登 教 授 内田 誠一 教 授 島田 大助 教 授 外村 彰 准教授 増田 知之 准教授 安田 容子	
	日本文学特別研究Ⅲ	S	H61852	1	2		教 授 古瀬 雅義 教 授 富永 一登 教 授 内田 誠一 教 授 島田 大助 教 授 外村 彰 准教授 増田 知之	
	日本文学特別研究Ⅳ	S	H61853	1		2	教 授 古瀬 雅義 教 授 富永 一登 教 授 内田 誠一 教 授 島田 大助 教 授 外村 彰 准教授 増田 知之	

教 育 課 程
—日本語学日本文学専攻〔博士前期課程〕—

研 分 野 究 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コ ー ド	単 位 数	週時間数		担 当 者	履 修 方 法
					前 期	後 期		
国語教育学	音声言語教育学特論	L	H14490	2			(選考中)	
	作文教育学特論	L	H35450	2			(選考中)	
	読書・読解教育学特論	L	H53450	2	2		教 授 大滝 一登	
	漢字・語彙教育学特論	L	H15450	2	2		教 授 大迫 正一	
	音声言語教育学演習	S	H14480	1			(選考中)	
	作文教育学演習	S	H35400	1			(選考中)	
	読書・読解教育学演習	S	H53400	1		2	教 授 大滝 一登	
	漢字・語彙教育学演習	S	H15400	1		2	教 授 大迫 正一	
	書写教育特論	L	H44900	2	2		教 授 信廣 友江	
	書道教育特論	L	H46300	2		2	教 授 信廣 友江	
	書写教育演習	S	H44700	1	2		教 授 信廣 友江	
	書道教育演習	S	H46100	1		2	教 授 信廣 友江	
	国語教育学特別研究Ⅰ	S	H33250	1	2		教 授 大滝 一登	
							教 授 信廣 友江	
							教 授 谷口 邦彦	
	国語教育学特別研究Ⅱ	S	H33251	1	2		教 授 大迫 正一	
							教 授 大滝 一登	
							教 授 信廣 友江	
	国語教育学特別研究Ⅲ	S	H33252	1	2		教 授 谷口 邦彦	
							教 授 大迫 正一	
							教 授 大滝 一登	
	国語教育学特別研究Ⅳ	S	H33253	1	2		教 授 信廣 友江	
							教 授 谷口 邦彦	
							教 授 大迫 正一	
共通科目	漢文学特論	L	H15960	2	2		教 授 富永 一登	
	漢文学演習	S	H15810	1		2	教 授 富永 一登	
	口頭表現実践研究	S	H31690	1	2		教 授 川岸 克己	
	文章表現実践研究	S	H72600	1		2	教 授 川岸 克己	
	現代文理解演習	S	H31400	1		2	教 授 外村 彰	
	古文理解演習	S	H35300	1	2		教 授 古瀬 雅義	
	漢文理解演習	S	H15970	1		2	教 授 内田 誠一	
	国語教育課程実践研究	S	H32300	1	2		教 授 大滝 一登	
	国語教育指導実践研究	S	H33400	1		2	教 授 大滝 一登	
	書写教育実践研究	S	H44800	1	2		教 授 谷口 邦彦	
	書道教育実践研究	S	H46200	1		2	教 授 谷口 邦彦	

教 育 課 程
—日本語学日本文学専攻〔博士後期課程〕—

研 分 野 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コード	単 位 数	週時間数		担 当 者	履 修 方 法
					前 期	後 期		
日 本 語 学 ・ 国 語 教 育 学	日本語発達史特殊講義A	L	H58400	2	2		教 授 江口 泰生	研究指導教員の担当する「特殊講義A・B」又は「特殊講義C・D」から各2単位及び「特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」各1単位を含め、合計10単位以上を修得すること。
	日本語発達史特殊講義B	L	H58401	2		2	教 授 江口 泰生	
	現代日本語特殊講義A	L	H31300	2	2		教 授 宮岸 哲也	
	現代日本語特殊講義B	L	H31301	2		2	教 授 宮岸 哲也	
	国語教育学特殊講義A	L	H33110	2	2		教 授 谷口 邦彦	
	国語教育学特殊講義B	L	H33111	2		2	教 授 谷口 邦彦	
	国語教育学特殊講義C	L	H33112	2	2		教 授 信廣 友江	
	国語教育学特殊講義D	L	H33113	2		2	教 授 信廣 友江	
	日本語学・国語教育学 特殊研究Ⅰ	S	H54600	1	2		教 授 江口 泰生 教 授 宮岸 哲也 教 授 信廣 友江	
	日本語学・国語教育学 特殊研究Ⅱ	S	H54601	1		2	教 授 江口 泰生 教 授 宮岸 哲也 教 授 信廣 友江	
	日本語学・国語教育学 特殊研究Ⅲ	S	H54602	1	2		教 授 江口 泰生 教 授 宮岸 哲也 教 授 信廣 友江	
	日本語学・国語教育学 特殊研究Ⅳ	S	H54603	1		2	教 授 江口 泰生 教 授 宮岸 哲也 教 授 信廣 友江	
	日本語学・国語教育学 特殊研究Ⅴ	S	H54604	1	2		教 授 江口 泰生 教 授 宮岸 哲也 教 授 信廣 友江	
	日本語学・国語教育学 特殊研究Ⅵ	S	H54605	1		2	教 授 江口 泰生 教 授 宮岸 哲也 教 授 信廣 友江	
日 本 文 学	古代日本文学特殊講義A	L	H33800	2	2		教 授 古瀬 雅義	
	古代日本文学特殊講義B	L	H33801	2		2	教 授 古瀬 雅義	
	中世日本文学特殊講義A	L	H50800	2	2		教 授 古瀬 雅義	
	中世日本文学特殊講義B	L	H50801	2		2	教 授 古瀬 雅義	
	近世日本文学特殊講義A	L	H30340	2			(選考中)	
	近世日本文学特殊講義B	L	H30341	2			(選考中)	
	近代日本文学特殊講義A	L	H30440	2	2		教 授 外村 彰	
	近代日本文学特殊講義B	L	H30441	2		2	教 授 外村 彰	
	漢文学特殊講義A	L	H15910	2	2		教 授 富永 一登	
	漢文学特殊講義B	L	H15911	2		2	教 授 富永 一登	
	日本文化論特殊講義A	L	H62310	2			(選考中)	
	日本文化論特殊講義B	L	H62311	2			(選考中)	
	日本文学特殊研究Ⅰ	S	H60300	1	2		教 授 富永 一登 教 授 古瀬 雅義 教 授 外村 彰	
	日本文学特殊研究Ⅱ	S	H60301	1		2	教 授 富永 一登 教 授 古瀬 雅義 教 授 外村 彰	
	日本文学特殊研究Ⅲ	S	H60302	1	2		教 授 富永 一登 教 授 古瀬 雅義 教 授 外村 彰	
	日本文学特殊研究Ⅳ	S	H60303	1		2	教 授 富永 一登 教 授 古瀬 雅義 教 授 外村 彰	
	日本文学特殊研究Ⅴ	S	H60304	1	2		教 授 富永 一登 教 授 古瀬 雅義 教 授 外村 彰	
	日本文学特殊研究Ⅵ	S	H60305	1		2	教 授 富永 一登 教 授 古瀬 雅義 教 授 外村 彰	

教 育 課 程
—英語学英米文学専攻〔博士前期課程〕—

研 分 野 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コード	単 位 数	週時間数		担 当 者	履 修 方 法
					前 期	後 期		
英 語 学	英語学特論A	L	H05200	2	2		教 授 高口 圭轉	1 修了要件の「所定の授業科目を30単位以上修得」は、次により履修すること。なお、授業科目の履修に当たっては、研究指導教員の指導を受けること。 (1)研究指導教員の所属する研究分野（以下「所属研究分野」という。）から、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」各1単位及び研究指導教員の担当する「特別研究Ⅲ・Ⅳ」各1単位を含め、10単位以上を修得すること。 (2)所属研究分野以外の2研究分野から各4単位以上を修得すること。 (3)共通科目から4単位以上を修得した場合は、前号の規定にかかわらず、1研究分野4単位以上を修得したものとみなすことができる。 (4)他専攻の授業科目の単位を修得した場合は、4単位まで、修了要件の30単位に含めることができる。 ただし、この場合の単位は、第2号に規定する1研究分野4単位を修得したものとみなすことはできない。 2 修士論文又は特定の課題についての研究の成果は、研究指導教員の研究指導を受けた上で提出すること。 3 氏名横の「*」は研究指導補助教員を示す。
	英語学特論B	L	H05201	2		2	教 授 高口 圭轉	
	英語学特論C	L	H05202	2	2		教 授 三宅 英文	
	英語学特論D	L	H05203	2		2	教 授 三宅 英文	
	英語学演習A	S	H02200	1	2		教 授 高口 圭轉	
	英語学演習B	S	H02201	1		2	教 授 三宅 英文	
	英語学演習C	S	H02202	1	2		准教授 北原 アンドレア	
	英語学演習D	S	H02203	1		2	教 授 R. Gabbrielli	
	英語学特別研究Ⅰ	S	H04800	1	2		教 授 高口 圭轉	
							教 授 三宅 英文	
							教 授 R. Gabbrielli *	
							准教授 John McLean *	
	英語学特別研究Ⅱ	S	H04801	1	2		准教授 北原 アンドレア *	
							教 授 高口 圭轉	
							教 授 三宅 英文	
							教 授 R. Gabbrielli *	
	英語学特別研究Ⅲ	S	H04802	1	2		准教授 John McLean *	
							准教授 北原 アンドレア *	
	英語学特別研究Ⅳ	S	H04803	1	2		教 授 高口 圭轉	
							教 授 三宅 英文	
英 米 文 学	英米文学特論A	L	H14360	2	2		教 授 高口 圭轉	2 修士論文又は特定の課題についての研究の成果は、研究指導教員の研究指導を受けた上で提出すること。 3 氏名横の「*」は研究指導補助教員を示す。
	英米文学特論B	L	H14361	2		2	准教授 田多良俊樹	
	欧米文化特論A	L	H14472	2	2		准教授 島 克也	
	欧米文化特論B	L	H14473	2		2	准教授 T. Sak	
	異文化理解特論A	L	H00900	2	2		准教授 T. Sak	
	異文化理解特論B	L	H00901	2		2	教 授 青木 順子	
	英米文学演習A	S	H14110	1	2		准教授 四方 朱子	
	英米文学演習B	S	H14111	1		2	准教授 島 克也	
	欧米文化演習A	S	H14470	1	2		准教授 田多良俊樹	
	欧米文化演習B	S	H14471	1		2	准教授 T. Sak	
	異文化理解演習A	S	H00800	1		2	准教授 島 克也	
	異文化理解演習B	S	H00801	1		2	教 授 四方 朱子	
	英米文学特別研究Ⅰ	S	H14260	1	2		教 授 青木 順子	
							准教授 青木 順子	
							准教授 田多良俊樹	
							准教授 T. Sak	
	英米文学特別研究Ⅱ	S	H14261	1	2		准教授 島 克也 *	
							准教授 四方 朱子 *	
							教 授 青木 順子	
							准教授 田多良俊樹	
	英米文学特別研究Ⅲ	S	H14262	1	2		准教授 T. Sak	
							教 授 青木 順子	
	英米文学特別研究Ⅳ	S	H14263	1	2		准教授 田多良俊樹	
							准教授 T. Sak	
英 語 教 育 学	英語教育学特論A	L	H06110	2	2		教 授 松岡 博信	
	英語教育学特論B	L	H06111	2		2	教 授 松岡 博信	
	英語教育学特論C	L	H06112	2	2		教 授 山川 健一	
	英語教育学特論D	L	H06113	2			(選考中)	
	英語教育学演習A	S	H05400	1	2		教 授 松岡 博信	
	英語教育学演習B	S	H05401	1		2	教 授 松岡 博信	
	英語教育学演習C	S	H05402	1			(選考中)	
	英語教育学演習D	S	H05403	1		2	教 授 山川 健一	
	英語教育学特別研究Ⅰ	S	H05610	1	2		教 授 松岡 博信	
							教 授 山川 健一	
	英語教育学特別研究Ⅱ	S	H05611	1	2		教 授 松岡 博信	
							教 授 山川 健一	
	英語教育学特別研究Ⅲ	S	H05612	1	2		教 授 松岡 博信	
							教 授 山川 健一	
	英語教育学特別研究Ⅳ	S	H05613	1	2		教 授 松岡 博信	
							教 授 山川 健一	
共 通 科 目	英語コミュニケーション演習A	S	H07310	1	2		准教授 John McLean	
	英語コミュニケーション演習B	S	H07311	1		2	准教授 T. Sak	
	英語表現演習	S	H07800	1	2		教 授 R. Gabbrielli	
	英語読解演習	S	H07700	1		2	准教授 田多良俊樹	
	英語教育実践研究A	S	H06510	1	2		教 授 山川 健一	
	英語教育実践研究B	S	H06511	1			(選考中)	

教 育 課 程
—英語学英米文学専攻〔博士後期課程〕—

研 分 野 究 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コ ー ド	単 位 数	週時間数		担 当 者	履 修 方 法
					前 期	後 期		
英 語 学 ・ 英 語 教 育 学	英語学特殊講義A	L	H04500	2	2		教 授 高口 圭轉	研究指導教員の担当する「特殊講義A・B」各2単位及び「特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ」各1単位を含め、合計10単位以上を修得すること。
	英語学特殊講義B	L	H04501	2		2	教 授 高口 圭轉	
	英語学特殊講義C	L	H04502	2	2		教 授 三宅 英文	
	英語学特殊講義D	L	H04503	2		2	教 授 三宅 英文	
	英語教育学特殊講義A	L	H05510	2	2		教 授 松岡 博信	
	英語教育学特殊講義B	L	H05511	2		2	教 授 松岡 博信	
	英語教育学特殊講義C	L	H05512	2			(選考中)	
	英語教育学特殊講義D	L	H05513	2			(選考中)	
	英語学・英語教育学特殊研究Ⅰ	S	H01200	1	2		教 授 高口 圭轉 教 授 松岡 博信	
	英語学・英語教育学特殊研究Ⅱ	S	H01201	1		2	教 授 高口 圭轉 教 授 松岡 博信	
	英語学・英語教育学特殊研究Ⅲ	S	H01202	1	2		教 授 高口 圭轉 教 授 松岡 博信	
	英語学・英語教育学特殊研究Ⅳ	S	H01203	1		2	教 授 高口 圭轉 教 授 松岡 博信	
	英語学・英語教育学特殊研究Ⅴ	S	H01204	1	2		教 授 高口 圭轉 教 授 松岡 博信	
	英語学・英語教育学特殊研究Ⅵ	S	H01205	1		2	教 授 高口 圭轉 教 授 松岡 博信	
英 米 文 学	英米文学特殊講義A	L	H14230	2	2		教 授 青木 順子	
	英米文学特殊講義B	L	H14231	2		2	教 授 青木 順子	
	英米文学特殊講義C	L	H14232	2	2		准教授 田多良俊樹	
	英米文学特殊講義D	L	H14233	2		2	准教授 田多良俊樹	
	英米文学特殊講義E	L	H14234	2	2		准教授 T. Sak	
	英米文学特殊講義F	L	H14235	2		2	准教授 T. Sak	
	英米文学特殊研究Ⅰ	S	H14220	1	2		教 授 青木 順子	
	英米文学特殊研究Ⅱ	S	H14221	1		2	教 授 青木 順子	
	英米文学特殊研究Ⅲ	S	H14222	1	2		教 授 青木 順子	
	英米文学特殊研究Ⅳ	S	H14223	1		2	教 授 青木 順子	
	英米文学特殊研究Ⅴ	S	H14224	1	2		教 授 青木 順子	
	英米文学特殊研究Ⅵ	S	H14225	1		2	教 授 青木 順子	

教 育 課 程
—教育学専攻〔博士前期課程〕—

研 分 野 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コード	単 位 数	週時間数		担 当 者	履 修 方 法
					前 期	後 期		
教 育 学	教育学特論	L	H16710	2	2		教 授 深澤 広明 准教授 熊井 将太	1 (1)教育学・心理学コースの学生は、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」各1単位及び研究指導教員の担当する「特別研究Ⅲ・Ⅳ」各1単位並びに主として研究する分野以外の研究分野(関連科目を含む。)から4単位以上、合計30単位以上を修得すること。 (2)臨床心理学コースの学生は、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」各1単位及び研究指導教員の担当する「特別研究Ⅲ・Ⅳ」各1単位並びに主として研究する分野以外の研究分野(関連科目を含む。)から8単位以上、合計30単位以上を修得すること。 (3)他専攻の授業科目を修得した場合は、修了要件として4単位まで認めることができる。 2 修士論文又は特定の課題についての研究の成果は、研究指導教員の研究指導を受けた上で提出すること。 3 氏名横の「*」は研究指導補助教員を示す。
	学校・学級経営論特論	L	H15210	2		2	教 授 深澤 広明 准教授 熊井 将太	
	教育学研究の方法と倫理	L	H16720	2	2		教 授 棚橋 健治 准教授 熊井 将太 五十嵐 亮	
	特別ニーズ教育論特論	L	H53310	2		[2]	(選考中)	
	学校実地研究	S	H15220	2	2		教 授 深澤 広明 教 授 吉田 裕久	
	教育課程論特論	L	H16410	2	2		教 授 深澤 広明 准教授 熊井 将太	
	教育方法学特論	L	H26010	2		2	教 授 深澤 広明 准教授 熊井 将太	
	幼児教育学特論	L	H79510	2	2		教 授 西川 ひろ子	
	国語教育学特論	L	H32110	2		2	教 授 吉田 裕久	
	社会科教育学特論	L	H36010	2	2		教 授 棚橋 健治	
	算数・数学教育学特論	L	H35460	2		2	教 授 橋本 正継	
	理科教育学特論	L	H80010	2	2		教 授 土井 徹 准教授 小川 麻里	
	造形教育学特論	L	H50100	2		2	講師(兼任) 藤原 逸樹	
	体育科教育学特論	L	H50110	2	2		教 授 徳永 隆治 准教授 加登本 仁	
	児童英語教育学特論	L	H36020	2	2		教 授 平本 哲嗣	
	音楽教育学特論	L	H14460	2		2	講 師 長友 洋喜	
	教育学特別研究Ⅰ	S	H16700	1	2		教 授 深澤 広明 教 授 吉田 裕久 教 授 棚橋 健治 教 授 橋本 正継 教 授 徳永 隆治 教 授 山内 廣隆 教 授 西川 ひろ子 教 授 土井 徹 教 授 平本 哲嗣 准教授 小川 麻里 准教授 加登本 仁 * 准教授 熊井 将太 * 講 師 長友 洋喜 *	
	教育学特別研究Ⅱ	S	H16701	1		2	教 授 深澤 広明 教 授 吉田 裕久 教 授 棚橋 健治 教 授 橋本 正継 教 授 徳永 隆治 教 授 山内 廣隆 教 授 西川 ひろ子 教 授 土井 徹 教 授 平本 哲嗣 准教授 小川 麻里 * 准教授 加登本 仁 * 准教授 熊井 将太 * 講 師 長友 洋喜 *	
	教育学特別研究Ⅲ	S	H16702	1	2		教 授 深澤 広明 教 授 吉田 裕久 教 授 棚橋 健治 教 授 橋本 正継 教 授 徳永 隆治 教 授 山内 廣隆 教 授 西川 ひろ子 教 授 土井 徹 教 授 平本 哲嗣 准教授 小川 麻里	
	教育学特別研究Ⅳ	S	H16703	1		2	教 授 深澤 広明 教 授 吉田 裕久 教 授 棚橋 健治 教 授 橋本 正継 教 授 徳永 隆治 教 授 山内 廣隆 教 授 西川 ひろ子 教 授 土井 徹 教 授 平本 哲嗣 准教授 小川 麻里	

教 育 課 程
—教育学専攻〔博士前期課程〕—

研 究 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コ ー ド	単 位 数	週時間数		担 当 者	履 修 方 法
					前 期	後 期		
心 理 学	教授・学習心理学特論	L	H28500	2	2		教 授 池田 智子	
	発達心理学特論	L	H69510	2	2		教 授 澤田 英三	
	人格心理学特論	L	H46010	2		2	准教授 齋藤 大輔	
	学校心理学特論	L	H15200	2		2	教 授 永田 彰子 准教授 五十嵐 亮	
	特別支援教育特論	L	H53300	2		2	教 授 船津 守久	
	生徒指導・教育相談、キャリア教育特論	L	H49500	2		2	教 授 澤田 英三	
	心理教育的アセスメント特論	L	H47450	2	2		教 授 山本 文枝	
	心理教育的アセスメント基礎演習	S	H47400	1		2	教 授 山本 文枝	
	学校カウンセリング・コンサルテーション基礎演習	S	H14700	1		2	教 授 西 まゆみ	
	心理学研究法特論	L	H46500	2		2	准教授 西村 聡生	
	心理統計法特論	L	H48000	2	2		准教授 藤原 裕弥	
	社会心理学特論	L	H36000	2	2		准教授 田淵 恵	
	心理学特別研究Ⅰ	S	H47600	1	2		教 授 池田 智子 教 授 澤田 英三 教 授 永田 彰子 准教授 五十嵐 亮 准教授 藤原 裕弥 准教授 西村 聡生 准教授 齋藤 大輔 准教授 田淵 恵	* *
	心理学特別研究Ⅱ	S	H47601	1		2	教 授 池田 智子 教 授 澤田 英三 教 授 永田 彰子 准教授 五十嵐 亮 准教授 藤原 裕弥 准教授 西村 聡生 准教授 齋藤 大輔 准教授 田淵 恵	* *
	心理学特別研究Ⅲ	S	H47602	1	2		教 授 池田 智子 教 授 澤田 英三 教 授 永田 彰子 准教授 藤原 裕弥 准教授 西村 聡生 准教授 齋藤 大輔	
	心理学特別研究Ⅳ	S	H47603	1		2	教 授 池田 智子 教 授 澤田 英三 教 授 永田 彰子 准教授 藤原 裕弥 准教授 西村 聡生 准教授 齋藤 大輔	
臨 床 心 理 学	○臨床心理学特論Ⅰ	L	H81020	2	2		教 授 船津 守久	
	○臨床心理学特論Ⅱ	L	H81021	2		2	教 授 金坂 弥起	
	○臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	L	H82420	2	2		教 授 金坂 弥起	
	○臨床心理面接特論Ⅱ	L	H82421	2		2	教 授 船津 守久	
	○臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	S	H81820	2	4		教 授 西 まゆみ	
	○臨床心理査定演習Ⅱ	S	H81821	2		4	准教授 生塩 詞子	
	○臨床心理基礎実習Ⅰ	P	H81520	1	4		教 授 山本 文枝 准教授 生塩 詞子	
	○臨床心理基礎実習Ⅱ	P	H81521	1		4	准教授 生塩 詞子 教 授 山本 文枝	
	○臨床心理実習ⅠA (心理実践実習ⅠB)	P	H82122	1	4		教 授 船津 守久 教 授 金坂 弥起 教 授 西 まゆみ 講師(兼任) 藤沢 敏幸	
	○臨床心理実習ⅠB (心理実践実習Ⅳ)	P	H82123	2	[80]		教 授 船津 守久 教 授 金坂 弥起 教 授 西 まゆみ 講師(兼任) 藤沢 敏幸	
	○臨床心理実習Ⅱ	P	H82121	1		4	教 授 船津 守久 教 授 金坂 弥起 教 授 西 まゆみ	

教 育 課 程
—教育学専攻〔博士前期課程〕—

研 分 野 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コ ー ド	単 位 数	週時間数		担 当 者	履 修 方 法
					前 期	後 期		
臨 床 心 理 学	○心理実践実習ⅠA	P	H47730	1	2	2	教 授 船津 守久 教 授 金坂 弥起 教 授 西 まゆみ 教 授 山本 文枝 准教授 生塩 詞子 講師(兼任) 藤沢 敏幸	
	○心理実践実習Ⅱ	P	H47731	2	[68]		教 授 西 まゆみ 教 授 山本 文枝 准教授 生塩 詞子	
	○心理実践実習Ⅲ	P	H47732	2	[92]		教 授 船津 守久 教 授 金坂 弥起 教 授 西 まゆみ 教 授 山本 文枝 准教授 生塩 詞子	
	○心理実践実習Ⅴ	P	H47733	4	2[50]		教 授 船津 守久 教 授 金坂 弥起 教 授 西 まゆみ 教 授 山本 文枝 准教授 生塩 詞子 講師(兼任) 藤沢 敏幸	
	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	L	H49110	2		[2]	講師(兼任) 吉長 成恭	
	障害児心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	L	H44410	2		2	教 授 船津 守久	
	学校カウンセリング・コンサルテーション特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	L	H14800	2		2	教 授 西 まゆみ	
	犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	L	H70010	2	[2]		(選考中)	
	産業・組織心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	L	H35600	2		[2]	講師(兼任) 北野 智子	
	家族心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援 に関する理論と実践)	L	H14510	2	2		講師(兼任) 新宅 博明	
	健康心理学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	L	H30825	2	2		准教授 藤原 裕弥	
	高齢者心理学特論	L	H31800	2		[2]	講師(兼任) 林 智一	
	○心理療法特論	L	H48500	2		[2]	講師(兼任) 田中 慶江	
	○グループ・アプローチ特論	L	H30500	2	[2]		講師(兼任) 菅 武史	
	臨床心理学特別研究Ⅰ	S	H81700	1	2		教 授 船津 守久 教 授 金坂 弥起 教 授 西 まゆみ 教 授 山本 文枝 准教授 生塩 詞子	
	臨床心理学特別研究Ⅱ	S	H81701	1		2	教 授 船津 守久 教 授 金坂 弥起 教 授 西 まゆみ 教 授 山本 文枝 准教授 生塩 詞子	
	臨床心理学特別研究Ⅲ	S	H81702	1	2		教 授 船津 守久 教 授 金坂 弥起 教 授 西 まゆみ 教 授 山本 文枝 准教授 生塩 詞子	
	臨床心理学特別研究Ⅳ	S	H81703	1		2	教 授 船津 守久 教 授 金坂 弥起 教 授 西 まゆみ 教 授 山本 文枝 准教授 生塩 詞子	
科 関	人間学特論	L	H64510	2		2	教 授 山内 廣隆	
目 連	発達医学特論	L	H67010	2	2		教授(兼任) 瀬山 敏雄	

- ① ○印の科目は臨床心理学コースに所属する学生以外の者は履修できない。
 ② 臨床心理実習ⅠA(心理実践実習ⅠB)・臨床心理実習ⅠB(心理実践実習Ⅳ)・臨床心理実習Ⅱは、
 臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱの単位を全て修得した学生のみ履修できる。
 ③ 心理実践実習Ⅱ・Ⅴは、1・2年の通年開講とする。
 ④ 高齢者心理学特論は隔年開講(奇数年度開講)とする。
 ⑤ 週時間数の[]は集中講義を示す。実習科目の時間数は実時間数を示す。

教 育 課 程
—教育学専攻〔博士後期課程〕—

研 分 野 究 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コ ー ド	単 位 数	週時間数		担 当 者	履 修 方 法
					前 期	後 期		
教育 学	教育哲学特殊講義A	L	H24510	2			(選考中)	研究指導教員の担当する 「特殊講義A・B」各2 単位及 び「特殊研究I・II・III・IV・V・ VI」各1 単位を含め、合計10 単位以上を修得すること。
	教育哲学特殊講義B	L	H24511	2			(選考中)	
	教育史学特殊講義A	L	H19010	2			(選考中)	
	教育史学特殊講義B	L	H19011	2			(選考中)	
	教育方法学特殊講義A	L	H25510	2	2		教 授 深澤 広明	
	教育方法学特殊講義B	L	H25511	2		2	教 授 深澤 広明	
	教科教育学特殊講義A	L	H27410	2	2		教 授 吉田 裕久	
							教 授 徳永 隆治	
							教 授 棚橋 健治	
	教科教育学特殊講義B	L	H27411	2		2	教 授 吉田 裕久	
							教 授 徳永 隆治	
							教 授 棚橋 健治	
	教育社会学特殊講義A	L	H21020	2			(選考中)	
	教育社会学特殊講義B	L	H21021	2			(選考中)	
	幼児教育学特殊講義A	L	H79010	2			(選考中)	
	幼児教育学特殊講義B	L	H79011	2			(選考中)	
	教育学特殊研究 I	S	H16600	1	2		教 授 深澤 広明	
							教 授 吉田 裕久	
							教 授 棚橋 健治	
							教 授 徳永 隆治	
							教 授 山内 廣隆	
	教育学特殊研究 II	S	H16601	1		2	教 授 深澤 広明	
							教 授 吉田 裕久	
							教 授 棚橋 健治	
							教 授 徳永 隆治	
							教 授 山内 廣隆	
	教育学特殊研究 III	S	H16602	1	2		教 授 深澤 広明	
							教 授 吉田 裕久	
							教 授 棚橋 健治	
							教 授 徳永 隆治	
							教 授 山内 廣隆	
	教育学特殊研究 IV	S	H16603	1		2	教 授 深澤 広明	
							教 授 吉田 裕久	
							教 授 棚橋 健治	
							教 授 徳永 隆治	
							教 授 山内 廣隆	
	教育学特殊研究 V	S	H16604	1	2		教 授 深澤 広明	
							教 授 吉田 裕久	
							教 授 棚橋 健治	
							教 授 徳永 隆治	
							教 授 山内 廣隆	
	教育学特殊研究 VI	S	H16605	1		2	教 授 深澤 広明	
							教 授 吉田 裕久	
							教 授 棚橋 健治	
							教 授 徳永 隆治	
							教 授 山内 廣隆	

教 育 課 程
—教育学専攻〔博士後期課程〕—

研 分 野 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コード	単 位 数	週時間数		担 当 者	履 修 方 法
					前 期	後 期		
心 理 学	教育心理学特殊講義A	L	H22510	2	2		教 授 池田 智子	
	教育心理学特殊講義B	L	H22511	2		2	教 授 池田 智子	
	発達心理学特殊講義A	L	H69010	2			(選考中)	
	発達心理学特殊講義B	L	H69011	2			(選考中)	
	人格心理学特殊講義A	L	H45810	2			(選考中)	
	人格心理学特殊講義B	L	H45811	2			(選考中)	
	集団・組織心理学特殊講義A	L	H36520	2			(選考中)	
	集団・組織心理学特殊講義B	L	H36521	2			(選考中)	
	心理学特殊研究Ⅰ	S	H46900	1	2		教 授 池田 智子 教 授 澤田 英三	
	心理学特殊研究Ⅱ	S	H46901	1		2	教 授 池田 智子 教 授 澤田 英三	
	心理学特殊研究Ⅲ	S	H46902	1	2		教 授 池田 智子 教 授 澤田 英三	
	心理学特殊研究Ⅳ	S	H46903	1		2	教 授 池田 智子 教 授 澤田 英三	
	心理学特殊研究Ⅴ	S	H46904	1	2		教 授 池田 智子 教 授 澤田 英三	
	心理学特殊研究Ⅵ	S	H46905	1		2	教 授 池田 智子 教 授 澤田 英三	
臨 床 心 理 学	臨床心理学特殊講義A	L	H81910	2	2		教 授 船津 守久	
	臨床心理学特殊講義B	L	H81911	2		2	教 授 船津 守久	
	教育相談心理学特殊講義A	L	H24310	2			(選考中)	
	教育相談心理学特殊講義B	L	H24311	2			(選考中)	
	行動臨床心理学特殊講義A	L	H31710	2			(選考中)	
	行動臨床心理学特殊講義B	L	H31711	2			(選考中)	
	教育臨床心理学特殊講義A	L	H26520	2	2		教 授 澤田 英三	
	教育臨床心理学特殊講義B	L	H26521	2		2	教 授 澤田 英三	
	健康心理学特殊講義A	L	H30820	2			(選考中)	
	健康心理学特殊講義B	L	H30821	2			(選考中)	
	臨床心理学特殊研究Ⅰ	S	H81600	1	2		教 授 船津 守久	
	臨床心理学特殊研究Ⅱ	S	H81601	1		2	教 授 船津 守久	
	臨床心理学特殊研究Ⅲ	S	H81602	1	2		教 授 船津 守久	
	臨床心理学特殊研究Ⅳ	S	H81603	1		2	教 授 船津 守久	
	臨床心理学特殊研究Ⅴ	S	H81604	1	2		教 授 船津 守久	
	臨床心理学特殊研究Ⅵ	S	H81605	1		2	教 授 船津 守久	

履修要項

文学研究科

博士課程は、前期2年の課程（以下「博士前期課程」という。）及び後期3年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分し、博士前期課程は修士課程として取り扱う。

1) 修了のための必要条件

(1) 修業年限

博士課程の標準修業年限は5年とし、博士前期課程の修業年限は2年、博士後期課程の修業年限は3年とする。在学期間は、特例を除き、博士前期課程は4年、博士後期課程は6年を超えることはできない。

(2) 在学期間延長

学生が標準修業年限以上在学して所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受け、なお課程修了に至らない者が、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果（以下「修士論文等」という。）又は博士論文作成のため引き続き在学期間を延長しようとするときは、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

この場合、延長期間中の単位の修得は認められない。なお、在学期間の延長及び延長期間の更新は1年ごととし願い出は、2月20日までとする。

(3) 修了要件

【博士前期課程】

博士前期課程に2年以上在学し、各専攻で定める授業科目を30単位以上修得し、必要な研究指導を受けた上、博士前期課程の目的に応じ、修士論文等の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、研究科委員会が優れた業績を上げたと認める者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

【博士後期課程】

博士後期課程に3年以上在学し、各専攻で定める授業科目を10単位以上修得し、必要な研究指導を受けた上、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、研究科委員会が優れた研究業績を上げたと認める者については、大学院に3年（博士前期課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

(4) 学位

博士前期課程を修了した者には修士（文学）の学位を、博士後期課程を修了した者には、博士（文学）の学位を授与する。

2) 研究指導

(1) 研究指導教員の決定

(a) 研究科長は、学生が入学した後に速やかに、各学生の主研究指導教員及び副研究指導教員（以下「研究指導教員等」という。）を決定するものとする。

(b) 研究指導教員等の変更は原則として認めない。やむを得ず変更を必要とする場合は、学長に「研究指導教員等変更申請書」を提出し、研究科委員会の承認を得るものとする。

(2) 研究課題等の決定

【博士前期課程】

学生は、入学年度の4月30日までに、研究指導教員等の指導を受けて研究課題名を提出するものとする。

【博士後期課程】

学生は、入学年度の4月30日までに、研究指導教員等の指導を受けて研究課題名及び研究計画概要を提出するものとする。

(3) 研究指導

(a) 個別指導

研究指導教員等は、あらかじめ定めた時間帯に、定期的に学生の研究内容及び研究経過に関する報告事項を踏まえて、研究指導を行う。

なお、研究科委員会が教育研究上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、博士前期課程の学生について認める場合は、当該研究指導を受ける期間は、1年を超えないものとする。

(b) 集団指導

各専攻は、学生の研究経過発表会を毎年度1回以上開催し、研究科担当の教員及び学生の質疑を通して、学生

の研究の深化及び視野拡大に努める。

3) 授業科目の履修方法

【単位の基準】

- (1) 授業科目の単位は、次の基準による。

「特論」、「特別講義」（博士前期課程）及び「特殊講義」、「特別講義」（博士後期課程）は、授業 15 時間をもって 1 単位とする。

「演習」、「実践研究」（博士前期課程）は、授業 30 時間をもって 1 単位とする。

「実習」（博士前期課程）は、授業 45 時間をもって 1 単位とする。

「特別研究」（博士前期課程）及び「特殊研究」（博士後期課程）は、授業 30 時間をもって 1 単位とする。

- (2) 学生が本学大学院に入学する前の既修得単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）及び本学入学後他の大学院において履修した授業科目について修得した単位は、研究科委員会が教育研究上有益と認めた場合は、本学の授業科目との対応に留意し、博士前期課程においては 15 単位を、博士後期課程においては 8 単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

（安田女子大学大学院既修得単位認定内規参照）

【博士前期課程の履修方法】

授業科目 30 単位以上の単位の履修については、研究指導教員等の指導のもとに授業科目を選択し、履修届を所定の期日までに提出の上、所定の単位を履修するものとする。

- (1) 「特別研究Ⅲ・Ⅳ」は、修士の学位論文提出の要件として 2 年次の必修とする。なお、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」は、「特別研究Ⅲ・Ⅳ」履修の基礎要件として 1 年次の必修とする。
- (2) 大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例の適用を希望する者の履修方法は、別に定める。（安田女子大学大学院学則参照、安田女子大学大学院における履修手続等に関する細則参照）
- (3) 教育職員免許状取得のために学部の授業科目の履修を希望する者の履修方法は、別に定める。（安田女子大学大学院における履修手続等に関する細則参照）
- (4) 博士前期課程修了（標準修業年限 2 年）の基本スケジュールは、標準修業年限別のスケジュールを参照すること。

【博士後期課程の履修方法】

授業科目 10 単位以上の単位の履修については、博士前期課程の履修方法に準ずるものとする。

- (1) 主研究指導教員の担当する「特殊講義 A」「特殊講義 B」各 2 単位、「特殊研究Ⅰ」「特殊研究Ⅱ」「特殊研究Ⅲ」「特別研究Ⅳ」「特別研究Ⅴ」「特別研究Ⅵ」各 1 単位は、博士の学位論文提出の要件として必修とする。
- (2) 博士前期課程の授業科目の履修を希望する者の履修方法は、別に定める。（安田女子大学大学院における履修手続等に関する細則参照）
- (3) 博士後期課程修了（標準修業年限 3 年）の基本スケジュールは、標準修業年限別のスケジュールを参照すること。

4) 学位論文

【修士の学位論文】

- (1) 修士論文等の審査を申請することができる学生は、修士論文等の作成等に対する指導等を受けている者で、次のすべてに該当するものとする。
- (a) 既に所定の単位を修得している学生（修士論文等の審査が終了する時点までに所定の単位を修得する見込みがあると認められた学生を含む。）
- (b) 修士論文等題目の決定を受けている学生
- (2) 修士論文等の題目は、研究指導教員等の確認を経て修士論文等を提出しようとする年度の 6 月 30 日までに学長（教務課）に提出するものとする。
- 修士論文等の題目提出後、題目に変更が生じた者は、研究指導教員等の確認を経て 12 月 20 日までに届け出るものとする。
- (3) 修士論文等は、研究指導教員等の確認を経て、修士論文等審査願・誓約書を添えて 1 月 10 日までに学長（教

務課)に提出するものとする。

- (4) 修士論文等の審査は、研究科委員会で選出された研究指導教員のうちから3名以上の審査委員により行う。
- (5) 修士論文等は、各専攻で定める様式に従って作成すること。

【博士の学位論文】

- (1) 博士論文の審査を申請することができる学生は、博士論文の作成等に対する指導等を受けている者で、次のすべてに該当するものとする。
 - (a) 博士論文中間報告書の内容が可と決定された学生
 - (b) 既に所定の単位を修得している学生（博士論文の審査が終了する時点までに所定の単位を修得する見込みがあると認められた学生を含む。）
 - (c) 学術専門誌に筆頭著者として発表した論文が1報以上あること。（安田女子大学学位規程、安田女子大学大学院における学位の申請手続等に関する細則参照）
- (2) 博士論文中間報告書は、研究科長等の確認を経て、第2年次の9月30日までに提出するものとする（安田女子大学大学院における学位の申請手続等に関する細則参照）
- (3) 博士論文は、研究科長等の確認を経て、必要書類を添えて10月31日までに提出するものとする。（安田女子大学学位規程、安田女子大学大学院における学位の申請手続等に関する細則参照）

5) 最終試験

- (1) 最終試験は、審査委員によって筆記又は口頭により行う。
- (2) 最終試験は、学位論文の内容及びこれに関連ある専門分野の科目について行う。

6) 成績評価

- (1) 履修した授業科目の単位認定は、試験又は研究報告によるものとする。
- (2) 授業科目の成績の評価は、秀、優、良、可、不可の5段階の評語をもって表し、秀、優、良、可をそれぞれ合格とし、不可を不合格とする。
- (3) 合格した授業科目については、所定の単位を与える。
- (4) 学位論文及び最終試験の判定の結果は、合格又は不合格で表す。

免許・資格の取得

1. 教育職員免許状

1) 取得できる免許状

研究科	専攻	取得できる免許状の種類	免許教科
文学研究科	日本語学日本文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	国語 国語 書道
	英語学英米文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	外国語（英語） 外国語（英語）
	教育学専攻	小学校教諭専修免許状 幼稚園教諭専修免許状	— —

2) 取得のための基礎資格と所要単位数

専修免許状の種類 基礎資格及び所要単位数		小学校	中学校	高等学校	幼稚園
基礎資格		修士の学位を有すること			
所要単位数	大学が独自に設定する科目	24	24	24	24

※3) 留意事項ア. 参照

3) 留意事項

- ア. 上記 1) の免許状を取得するためには、取得を希望する専修免許状と同種の一種免許状を取得していることが必要である。
- イ. 入学年度や取得している免許状の種類等により、修得を必要とする科目・単位数等が異なるため、詳細については教務課まで問い合わせること。

4) 取得のための本学開設授業科目（2024 年度入学生用）

取得を希望する専修免許状と同種の一種免許状を既に取得している場合は、各専攻において開設される以下の授業科目から 24 単位以上を修得すること。

〈日本語学日本文学専攻〉

			授業科目	対応する免許の種類			
				単位数	中専免 (国語) 高専免 (国語)	高専免 (書道)	
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	日本語史特論	2	○	—	
			日本語文法学特論	2	○	—	
			日本語音韻学特論	2	○	—	
			日本語方言学特論	2	○	—	
			日本語史演習	1	○	—	
			日本語文法学演習	1	○	—	
			日本語音韻学演習	1	○	—	
			日本語方言学演習	1	○	—	
			古代日本文学特論A	2	○	○	
			古代日本文学特論B	2	○	○	
			近世日本文学特論A	2	○	○	
			近世日本文学特論B	2	○	○	
			近代日本文学特論A	2	○	○	
			近代日本文学特論B	2	○	○	
			古代日本文学演習A	1	○	○	
			古代日本文学演習B	1	○	○	
			近世日本文学演習A	1	○	○	
			近世日本文学演習B	1	○	○	
			近代日本文学演習A	1	○	○	
			近代日本文学演習B	1	○	○	
			漢文学特論	2	○	○	
			漢文学演習	1	○	○	
			現代文理解演習	1	○	○	
			古文理解演習	1	○	○	
			漢文理解演習	1	○	○	
			日本文化論特論A	2	○	○	
			日本文化論特論B	2	○	○	
			日本文化論演習A	1	○	○	
			日本文化論演習B	1	○	○	
			漢字・語彙教育学特論	2	○	○	
			漢字・語彙教育学演習	1	○	○	
			各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む)	読書・読解教育学特論	2	○	—
				読書・読解教育学演習	1	○	—
	国語教育課程実践研究	1		○	—		
	国語教育指導実践研究	1		○	—		
	書写教育特論	2		—	○		
	書道教育特論	2		—	○		
	書写教育演習	1		—	○		
	書道教育演習	1		—	○		
	書写教育実践研究	1		—	○		
	書道教育実践研究	1		—	○		

〈英語学英米文学専攻〉

	授業科目	中専免（英語） 高専免（英語）	
		単位数	単位数
大学が独自に設定する科目	教科に関する専門的事項	英語学特論 A	2
		英語学特論 B	2
		英語学特論 C	2
		英語学特論 D	2
		英語学演習 A	1
		英語学演習 B	1
		英語学演習 D	1
		英米文学特論 A	2
		英米文学特論 B	2
		英米文学演習 A	1
		英米文学演習 B	1
		欧米文化特論 B	2
		欧米文化演習 A	1
	(情報通信技術の活用を含む) 各教科の指導法	異文化理解特論 A	2
		異文化理解演習 B	1
		英語教育学特論 A	2
		英語教育学特論 B	2
		英語教育学特論 C	2
		英語教育学特論 D	2
		英語教育学演習 A	1
		英語教育学演習 B	1
		英語教育学演習 C	1
		英語教育学演習 D	1
		英語教育実践研究 A	1
		英語教育実践研究 B	1

〈教育学専攻〉

			授業科目	対応する免許の種類		
				単位数	幼専免	小専免
大学が独自に設定する科目	導 教 法 及 び 関 係 する 科 目 の 指 導 法	(情 報 通 信 技 術 の 活 用 を 含 む) 各 教 科 の 指 導 法	国語教育学特論	2	-	○
			社会科教育学特論	2	-	○
			算数・数学教育学特論	2	-	○
			理科教育学特論	2	-	○
			音楽教育学特論	2	-	○
			造形教育学特論	2	-	○
			体育科教育学特論	2	-	○
			児童英語教育学特論	2	-	○
	教育の基礎的理解に関する科目		教育学特論	2	○	○
			学校・学級経営論特論	2	○	○
			特別ニーズ教育論特論	2	○	○
			教育課程論特論	2	○	○
			幼児教育学特論	2	○	-
			発達医学特論	2	○	○
			教授・学習心理学特論	2	○	○
			発達心理学特論	2	○	○
			学校心理学特論	2	○	○
			特別支援教育特論	2	○	○
			心理教育的アセスメント特論	2	○	○
			心理教育的アセスメント基礎演習	1	○	○
			学校カウンセリング・コンサルテーション基礎演習	1	○	○
			臨床心理学特論Ⅰ ※	2	○	○
			臨床心理学特論Ⅱ ※	2	○	○
			家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	○	○
			精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	○	○
			障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	○	○
			学校カウンセリング・コンサルテーション特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	○	○
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		教育方法学特論	2	○	○
			生徒指導・教育相談、キャリア教育特論	2	-	○
	教育実践に関する科目		学校実地研究	2	○	○

*教育学専攻で、専修免許状を取得するために開設されている授業科目は、免許状の種類によって異なる。

各免許の種類欄に○印を付した科目から24単位以上を修得すること。

*※印は臨床心理学コースに所属する学生以外の者は履修できない。

2. 学校心理士

1) 学校心理士とは

・「学校心理士」は、学校心理学に関わった仕事をする専門家である。

学校心理学は、学校教育において一人ひとりの子どもが学習面、心理・社会面、進路面、健康面における課題への取り組みの過程で出会う問題状況の解決を援助し、子どもが成長する「心理教育的援助サービス」の理論と実践を支える学問体系である。

このような意味から、「学校心理士」には、次のような資質と経験が求められる。

- ①学校心理学に関する専門的な知識と識見及びそれに基づく深い理解と判断力
- ②学校心理学に関する豊かな実務経験
- ③学校教育の組織・運営及び実務についての識見

・「学校心理士」の資格は、一般社団法人 学校心理士認定運営機構が資格認定を行っている。学校心理士スーパーバイザー、学校心理士・学校心理士補は、その多くが教育現場で活躍している。

2) 資格の取得

「学校心理士」の資格申請には、いくつかの類型があるが、本学の大学院教育学専攻（博士前期課程）を修了する者については類型Ⅰで申請することになる。

類型Ⅰで「学校心理士」を申請するための条件は、次のとおりである。

①類型Ⅰで審査を受験するための条件

- a. 大学院修士課程・博士課程において、学校心理学に関する所定の領域に属する科目（下記3）参照）の単位を全て修得し、1年以上の学校心理学に関する専門的実務経験（申請時直前5年以内）を有する者である。
- b. （特例）「大学院修士課程修了見込み」として受験を申請する場合、ア）所定の領域に属する科目のうち、機構が定める基準の単位を修得しており、イ）アの要件を満たした後、大学院入学後に1年以上の専門的実務経験（なお、教員等は、大学院入学直前5年以内の学校心理学に関する専門的実務経験を充てることができる）を行っており、ウ）大学院修了までに残りの科目の単位修得が予定（履修登録等で証明する）されていれば可能である。（所定の科目の単位修得については、研究指導教員の指導を受けること。）

②資格認定のための審査

上記①の条件に加え、8月に運営機構が行う「資格認定のための審査」に合格することが必要である。

審査は、(1)提出された書類、(2)筆記試験、(3)ケースレポートまたは研究等の業績について行われ、審査結果を総合して合格、不合格が判定される。(2)の筆記試験では類型Ⅰで受験する場合は、試験Ⅰ＜論述式(学校心理学、学校カウンセリング・コンサルテーション、特別支援教育の3領域から出題)＞のみで、試験Ⅱ＜多枝選択式＞は免除される。

注：「学校心理学に関する専門的実務経験」とは

児童生徒、あるいは幼児の学校生活や園生活における心理的・教育的問題に関して、学校心理学の視点に立った専門的な心理教育的援助活動を常勤、非常勤を問わず、学校の教員や専門員として経験することを指す。

詳しくは、一般社団法人 学校心理士認定運営機構ホームページを参照すること。

3) 「学校心理士類型Ⅰ」を申請するために必要な大学院における開設科目

	領 域	本学での開設授業科目	授業単位
①学校心理学とそれを支える心理学的基盤	1. 学校心理学	学校心理学特論	2
	2. 教授・学習心理学	教授・学習心理学特論	2
	3. 発達心理学	発達心理学特論	2
	4. 臨床心理学	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2
②心理教育的援助サービスの方法	5. 心理教育的アセスメント	心理教育的アセスメント特論	2
	6. 学校カウンセリング・コンサルテーション	学校カウンセリング・コンサルテーション特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	2
③学校心理学的援助の実際	7. 特別支援教育	特別支援教育特論	2
	8. 生徒指導・教育相談、キャリア教育	生徒指導・教育相談、キャリア教育特論	2
基礎実習2科目	実習1. 心理教育的アセスメント基礎実習	心理教育的アセスメント基礎演習	1
	実習2. 学校カウンセリング・コンサルテーション基礎実習	学校カウンセリング・コンサルテーション基礎演習	1

上記の各領域にあたるすべての本学の開設授業科目を修得すること。

4) 専修免許状への「学校心理学」付記

本学の大学院教育学専攻（博士前期課程）を修了する者が、教育職員専修免許状の取得を希望する場合、心理研究分野において所定の科目（上記3）参照）を履修し単位を修得すれば、申し出により、専修免許状に「学校心理学」の名称が記載される。（所定科目の単位の修得については、研究指導教員の指導を受けること。）

3. 臨床心理士

1) 臨床心理士とは

「臨床心理士」は、心理的悩みや心配ごと、たとえば、子どもの知的発達の遅れ、言葉の遅れ、学力低下、不登校、いじめ、性格や行動（神経質、家庭内暴力、盗みなど）、生活習慣（夜尿、偏食など）のほか、友だち関係や家族間の人間関係、職場での人間関係やストレスなどの相談（アセスメント・カウンセリング・心理療法）を行う「心の専門家」の資格として、社会的に広く認知されるようになった。財団法人「日本臨床心理士資格認定協会」（以下「認定協会」という。）が認定する資格である。

心の問題に取り組む専門家の資格認定を行うため、1988年に認定協会が設立され、「臨床心理士」の資格認定が開始された。文部科学省の実施しているスクールカウンセラーの任用をはじめ、さまざまな領域で活躍している。

2) 資格の取得

「臨床心理士」の資格を取得するには、臨床心理士の資格試験に関する受験資格を有する大学院（指定大学院）で所定の科目を修め、臨床心理学に関する修士論文を提出して修了した後、認定協会が行う資格審査に合格することが必要である。

本学大学院では、2001年4月から教育学専攻の中に「臨床心理学コース」を開設し、翌年5月に認定協会から第1種指定大学院として認定を受けた。（第1種指定大学院を修了した者は、心理臨床経験なしで受験資格がある。）「臨床心理学コース」を修了した学生が、認定協会が行う資格審査に合格すれば臨床心理士の資格が取得できる。

3) 臨床心理士受験資格取得のための授業科目

指定授業科目	開設授業科目	単位	備 考
臨床心理学特論	臨床心理学特論Ⅰ	2	必修
	臨床心理学特論Ⅱ	2	
臨床心理面接特論	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	必修
	臨床心理面接特論Ⅱ	2	
臨床心理査定演習	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	必修
	臨床心理査定演習Ⅱ	2	
臨床心理基礎実習	臨床心理基礎実習Ⅰ	1	必修
	臨床心理基礎実習Ⅱ	1	
臨床心理実習	臨床心理実習ⅠA（心理実践実習ⅠB）	1	必修
	臨床心理実習ⅠB（心理実践実習Ⅳ）	2	
	臨床心理実習Ⅱ	1	
選択必修科目（A群）	心理学研究法特論	2	1科目以上
	心理統計法特論	2	
選択必修科目（B群）	人格心理学特論	2	1科目以上
	発達心理学特論	2	
選択必修科目（C群）	社会心理学特論	2	1科目以上
	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	
選択必修科目（D群）	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	1科目以上
	障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
	高齢者心理学特論	2	
選択必修科目（E群）	心理療法特論	2	1科目以上
	グループ・アプローチ特論	2	

<履修方法>

ア. 上記の必修科目 10 科目 16 単位、選択必修科目群（A～E）からそれぞれ 2 単位以上、計 10 単位以上、合計 26 単位以上を修得するほか、教育学専攻開設科目のうちから「特別研究Ⅰ」「特別研究Ⅱ」各 1 単位（必修）及び研究指導教員の担当する「特別研究Ⅲ」「特別研究Ⅳ」各 1 単位（必修）並びに主として研究する分野以外の研究分野から 8 単位以上の合計 30 単位以上を修得すること。

イ. 研究指導教員の研究指導を受け、臨床心理学に関する修士論文を提出すること。

4. 公認心理師

1) 公認心理師とは

「公認心理師」は 2017 年に施行された国家資格であり、公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいう。

- ①心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
- ②心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
- ③心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
- ④心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

2) 資格の取得

「公認心理師」の資格を取得するためには、国家試験に合格する必要がある。また、国家試験合格後、公認心理師登録簿への登録をする必要がある。試験に合格し、登録が完了して初めて、登録証が交付され「公認心理師」と名乗ることが可能となる。

なお、公認心理師の国家試験を受験するには、次の A～G のいずれかに該当する必要がある。

本学大学院教育学専攻（博士前期課程臨床心理学コース）の 2018 年度以降入学生で、法施行前に 4 年制大学において「省令で定める科目」を修めて卒業している者は、公認心理師受験資格取得のための授業科目（下記 3）参照）をすべて修めて修了することで E に該当することとなり、国家試験の受験資格を得ることができる。

※4 年制大学における「省令で定める科目」と大学院における「省令で定める科目」は別の科目である。

- A. 4 年制大学において「省令で定める科目」を修めて卒業し、かつ、大学院において「省令で定める科目」（下記 3）参照）を修めて修了した者
- B. 4 年制大学において「省令で定める科目」を修めて卒業し、かつ、2 年以上の実務経験を有する者
- C. 上記 2 つと同等以上の知識及び技能を有すると認定された者
- D. 法施行前に大学院において「省令で定める科目」を修めて修了した者
- E. 法施行前に 4 年制大学において「省令で定める科目」を修めて卒業し、かつ、施行後に大学院において「省令で定める科目」（下記 3）参照）を修めて修了した者
- F. 法施行前に 4 年制大学において「省令で定める科目」を修めて卒業し、かつ、2 年以上の実務経験を有する者

3) 公認心理師受験資格取得のための授業科目

公認心理士法施行規則第 2 条に定める科目	開設授業科目	単位数
保健医療分野に関する理論と支援の展開	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2
福祉分野に関する理論と支援の展開	障害児心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2
教育分野に関する理論と支援の展開	学校カウンセリング・コンサルテーション特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2

心理的アセスメントに関する理論と実践	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2
心理支援に関する理論と実践	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2
家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	家族心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2
心の健康教育に関する理論と実践	健康心理学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	2
心理実践実習 (実習の時間が450時間以上のものに限る。)	心理実践実習ⅠA	1
	臨床心理実習ⅠA（心理実践実習ⅠB）	1
	心理実践実習Ⅱ	2
	心理実践実習Ⅲ	2
	臨床心理実習ⅠB（心理実践実習Ⅳ）	2
	心理実践実習Ⅴ	4

上記すべての本学の開設授業科目を修得すること

家政学研究科

学位授与の方針

教育課程

履修要項

免許・資格の取得

学位授与の方針

家政学研究科 健康生活学専攻

本研究科は、建学の精神に基づき、高度な専門的知識と技能を身に付け、主体性を持って文化の伝承と創造に貢献し、次世代を育てる実践的な教育研究活動ができる人材の育成を教育目標とする。

この目標を踏まえた本研究科の教育課程を修め、必要な修了要件を満たした者に対し、学位（修士（家政学））を授与する。

- (1) 食住などの人間生活又は食べ物と健康との関係について幅広い知識を修得し、人間生活の向上や改善、食生活を通じた健康の増進や疾病の予防に寄与できる高度な専門性を身に付けている。
- (2) 衣環境・食環境・住環境・建築学に関わる自然科学・人文科学・社会科学分野の高い専門性、深い学識及び技術を有している。
- (3) 家政学の社会的役割を意識し、生活に関わる今日的な課題を見出し、それを解決するために、専門知識と技能を生かし、総合的な判断力及び創造的な研究能力を持って広く社会に貢献することができる。
- (4) 研究者と市民という視点に立って、生活を取り巻く現代社会の諸問及び政策課題を追求できる。
- (5) 生活課題の構造を広い視野で多面的・総合的に捉え、経験と理論を発展的に結合させて自らの見解を形成できる。
- (6) 専門的知識を統合して、生活者の視点及び国際的な視野とグローバルな視点から、衣環境・食環境・住環境に関わる諸問題を多角的に捉えることができる。
- (7) 時代の変動に伴う新しい生活課題を主体的に設定する能力を身に付け、必要な専門知識を高めていく努力をし、問題を解決しようとする姿勢を持つ。
- (8) 研究テーマの社会的意義を自覚し、その成果を地域や社会に還元しようとする態度を持つ。
- (9) 生活環境が人間生活のQOL向上に及ぼす役割を充分に理解し、研究成果を社会に還元しようとする意欲と実現できる能力を持つ。
- (10) 衣・食・住に関わる職能を理解し、それに対する倫理観を持っている。
- (11) 地域社会で主体的な貢献や活動を行うために、自律性、協調性、対話力及び倫理感などの人間力を身に付ける。
- (12) 衣・食・住環境を様々な視点から多角的に理解し統合して、それを生活空間の創造的な意匠計画に反映させる技能と表現力を有している。
- (13) 家庭科教員を目指す場合には、教材の研究及び開発を行う力、児童や生徒の教育を実践的に展開し、その分析・評価・改善ができる力を身に付ける。
- (14) 研究課題・成果について、日本語や英語により論理的に記述でき、討議を行うこと、また、的確な表現力及びコミュニケーション力を持って、研究成果を発表することができる。

教 育 課 程
—健康生活学専攻〔修士課程〕—

研 分 野 究 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コード	配当毎次	単位数			週時間数		担 当 者	履 修 方 法
					必 修	選 択	自 由	前 期	後 期		
基 本 科 目	健康生活学特論	L	H30830	1前	2			2		教 授 楠 幹江 教 授 藤本 和男 教 授 能勢 晶	1 基本科目6単位(必修), 実践科目4 単位(必修), 展開科目12単位以上, 特別研究8単位, 合計30単位以上修得し, かつ必要な研究指導を受けたうえで, 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。
	疾患リスク管理学特論	L	H35700	1前	2			2		教 授 箱田 雅之 教 授 井上 典子	
	統計的調査方法論	S	H53200	1前	2			2		教 授 友末 亮三 准教授 荒尾 恵介	
展 開 科 目	内 部 環 境 分 野	食品機能学特論	L	H44500	1後		2		2	准教授 白井 睦子 講 師 田中 亜路	
		食品機能分析学	L	H44600	2前		2	2		准教授 白井 睦子 講 師 田中 亜路	
		調理科学特論	L	H53100	1前		2	2		准教授 嶋田さおり 准教授 庄林 愛	
		免疫学特論	L	H78400	1後		2		2	教 授 清水 利朗	
		医療栄養学特論	L	H01030	1後		2		2	教 授 井上 典子	
		健康栄養学特論	L	H30600	2後		2		2	准教授 小倉 有子	
		健康食生活学特論	L	H30750	2前		2	2		准教授 嶋田さおり	
		生活習慣病リスク学特論	L	H48850	2後		2		2	教 授 箱田 雅之 教 授 松浦 達也	
		健康教育学特論	L	H30660	1後		2		2	准教授 荒尾 恵介	
		健康教育学演習	S	H30650	2前		2	2		准教授 荒尾 恵介	
	生 活 環 境 分 野	生活環境学特論	L	H48700	1前		2	2		教 授 青木 克仁	
		衣環境学特論	L	H00400	1前		2	2		教 授 楠 幹江	
		衣服造形材料学特論	L	H00600	2前		2	2		教 授 楠 幹江	
		住空間計画学特論	L	H36200	1後		2		2	教 授 藤本 和男 准教授 宮川 博恵	
		住空間設計特論	L	H36300	2前		2	2		教 授 藤本 和男	
		繊維資材学特論	L	H49700	2後		2		2	教 授 楠 幹江	
		人間心理学特論	L	H64700	2前		2	2		教授(兼任) 永田 彰子	
		環境微生物学特論	L	H15700	1前		2	2		教 授 清水 利朗 准教授 渡邊 健	
		生活情報学特論	L	H48890	1後		2		2	講師(兼任) 福井 敬祐	
		生活情報学演習	S	H48880	2前		2	2		講師(兼任) 福井 敬祐	
		生活教育学特論	L	H48810	1後		2		2	教 授 楠 幹江	
		生活教育学演習	S	H48800	2前		2	2		教 授 楠 幹江	
実 践 科 目	内部環境プロデュース実践演習	S	H54000	2後	2				2	准教授 小倉 有子	
	生活環境プロデュース実践演習	S	H48750	2後	2				2	教 授 楠 幹江	
特 別 研 究		P	H53230	1～2	8					教 授 楠 幹江 教 授 箱田 雅之 教 授 藤本 和男 教 授 友末 亮三 教 授 井上 典子 教 授 松浦 達也 教 授 清水 利朗 准教授 荒尾 恵介 准教授 渡邊 健 准教授 白井 睦子	

履修要項

家政学研究科

修士課程は、2年の課程である。

1) 修了のための必要条件

(1) 修業年限

修士課程の修業年限は2年とする。

在学期間は、特例を除き、修士課程は4年を超えることはできない。

(2) 在学期間延長

学生が標準修業年限以上在学して所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受け、なお課程修了に至らない者が、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果（以下「修士論文等」という。）作成のため引き続き在学期間を延長しようとするときは、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

この場合、延長期間中の単位の修得は認められない。

なお、在学期間の延長及び延長期間の更新は1年ごととし、願い出は、2月20日までとする。

(3) 修了要件

修士課程に2年以上在学し、専攻で定める授業科目を30単位以上修得し、必要な研究指導を受けた上、修士課程の目的に応じ、修士論文等の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、研究科委員会が優れた業績を上げたと認める者については、1年以上在学すれば足りるものとする。

(4) 学位

修士課程を修了した者には修士（家政学）の学位を授与する。

2) 研究指導

(1) 研究指導教員の決定

(a) 研究科長は、学生が入学した後、速やかに各学生の主研究指導教員及び副研究指導教員（以下「研究指導教員等」という。）を決定する。

(b) 研究指導教員等の変更は原則として認めない。やむを得ず変更を必要とする場合は、学長に「研究指導教員等変更申請書」を提出し、研究科委員会の承認を得るものとする。

(2) 研究課題の決定

学生は、入学年度の4月30日までに、研究指導教員等の指導を受けて研究課題名を提出するものとする。

(3) 研究指導

(a) 個別指導

研究指導教員等は、あらかじめ定めた時間に定期的に学生の研究内容及び研究経過に関する報告事項を踏まえて、研究指導を行う。

なお、研究科委員会が教育研究上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、当該研究指導を受ける期間は1年を超えないものとする。

(b) 集団指導

学生の研究経過発表会を毎年度1回以上開催し、研究科担当の教員及び学生の質疑を通して、学生の研究の深化と視野拡大に努める。

3) 授業科目の履修方法

【単位の基準】

(1) 授業科目の単位は、次の基準による。

「特論」、「方法論」、「分析学」は、授業15時間をもって1単位とする。

「演習」は、授業15時間をもって1単位とする。

「特別研究」は、授業15時間をもって1単位とする。

(2) 学生が本学大学院に入学する前の既修得単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）及び本学入学後、他の大学院において履修した授業科目について修得した単位は、研究科委員会が教育研究上有益と認めた場合は、本学の授業科目との対応に留意し15単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。（安田女子大学大学院既修得単位認定内規参照）

【履修方法】

授業科目 30 単位以上の単位の履修については、研究指導教員等の指導のもとに授業科目を選択し、履修登録の上、所定の単位を履修するものとする。

- (1) 大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例の適用を希望する者の履修方法は、別に定める。(安田女子大学大学院学則、安田女子大学大学院における履修手続等に関する細則参照)
- (2) 教育職員免許状取得のために学部・大学院の授業科目の履修を希望する者の履修方法は、別に定める。(安田女子大学大学院における履修手続等に関する細則参照)
- (3) 修士課程修了(標準修業年限 2 年)の基本スケジュールは、標準修業年限別のスケジュールを参照すること。

4) 学位論文

- (1) 修士論文等の審査を申請することができる学生は、修士論文等の作成等に対する指導等を受けている者で、次のすべてに該当するものとする。
 - (a) 既に所定の単位を修得している学生(修士論文等の審査が終了する時点までに所定の単位を修得する見込みがあると認められた学生を含む。)
 - (b) 修士論文等題目の決定を受けている学生
- (2) 修士論文等の題目は、研究指導教員等の確認を経て修士論文等を提出しようとする年度の 6 月 30 日までに学長(教務課)に提出するものとする。

修士論文等の題目提出後、題目に変更が生じた者は、研究指導教員等の確認を経て 12 月 20 日までに届け出るものとする。
- (3) 修士論文等は、研究指導教員等の確認を経て、修士論文等審査願・誓約書を添えて 1 月 10 日までに学長(教務課)に提出するものとする。
- (4) 修士論文等の審査は、研究科委員会で選出された研究指導教員のうちから 3 名以上の審査委員により行う。
- (5) 修士論文等は、専攻で定める様式に従って作成すること。

5) 最終試験

- (1) 最終試験は、審査委員によって筆記又は口頭により行う。
- (2) 最終試験は、学位論文の内容及びこれに関連ある専門分野の科目について行う。

6) 成績評価

- (1) 履修した授業科目の単位認定は、試験又は研究報告によるものとする。
- (2) 授業科目の成績の評価は、秀、優、良、可、不可の 5 段階の評語をもって表し、秀、優、良、可をそれぞれ合格とし、不可を不合格とする。
- (3) 合格した授業科目については、所定の単位を与える。
- (4) 学位論文及び最終試験の判定の結果は、合格又は不合格で表す。

免許・資格の取得

Ⅰ．教育職員免許状

1) 取得できる免許状

研究科	専攻	取得できる免許状の種類	免許教科
家政学研究科	健康生活学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	家庭 家庭

2) 取得のための基礎資格と所要単位数

専修免許状の種類		小学校	中学校	高等学校	幼稚園
基礎資格及び所要単位数					
基礎資格		修士の学位を有すること			
所要単位数	大学が独自に設定する科目	24	24	24	24

※3) 留意事項ア．参照

3) 留意事項

ア．上記1)の免許状を取得するためには、取得を希望する専修免許状と同種の一種免許状を取得していることが必要である。

イ．上記1)の免許教科以外的一种免許状を所有している者は、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所要の単位数を、教育学専攻博士前期課程開設科目により修得すれば、所有する免許状と同種・同教科の専修免許状を取得できる場合がある。ただし、この場合、教職実務経験年数が必要である。あらかじめ、申請しようとする都道府県教育委員会に問い合わせ、指導を受ける必要がある。

(注) 実務経験を証明する書類が必要となることがある。

ウ．入学年度や取得している免許状の種類等により、修得を必要とする科目・単位数等が異なるため、詳細については教務課まで問い合わせること。

〈健康生活学専攻〉

			単位数	対応する免許の種類	
				中専免 (家庭)	高専免 (家庭)
大学が独自に設定する科目	教科及び教科の指導法に関する専門的科目	健康生活学特論	2	必修	必修
		調理科学特論	2	必修	必修
		衣環境学特論	2	必修	必修
		衣服造形材料学特論	2	必修	必修
		住空間計画学特論	2	必修	必修
		住空間設計特論	2	必修	必修
		生活情報学特論	2	—	必修
		生活情報学演習	2	—	必修
		生活教育学特論	2	必修	必修
		生活教育学演習	2	必修	必修
		生活環境プロデュース実践演習	2	必修	必修
		食品機能学特論	2	必修	選択
		健康栄養学特論	2	必修	選択
		健康食生活学特論	2	必修	選択

* 健康生活学専攻で、専修免許状を取得するために開設されている授業科目は、免許状の種類によって異なる。各免許の「必修」及び「選択」を付した科目から24単位以上を修得すること。

薬学研究科

学位授与の方針

教育課程

履修要項

学位授与の方針

薬学研究科 薬学専攻

医学や生命科学の急激な発展とそれに伴う医療技術の進歩を担い、薬物治療を通して高度医療に貢献できる薬剤師を育成するとともに、医療に関して高度な専門知識・技能と優れた研究能力を併せ持つ人材を養成する。

4年間を通して特定の研究指導教員及び研究指導補助教員の指導の下に課題研究を実施し、博士論文を作成し、論文審査及び公開審査に合格することにより、博士（薬学）の学位が授与される。

- (1) 自ら諸問題を見出し、科学的根拠に基づいた対応ができ、地域における医療の中核を担うことができる職業人としての高度な専門知識と倫理観を持っている。
- (2) チーム医療の中で最適な薬物療法を提案し、優れた観察力を持って有効性・安全性を解析できる。
- (3) 柔軟で知的好奇心に満ちた思考と強い熱意を持って、社会のニーズに合った創薬や育薬を考えることができる。
- (4) 薬学専攻において修得した極めて高度な専門知識や研究能力を基に、柔軟な思考と深い洞察に基づいて、自ら課題を発見・設定し、独創的な発想に基づいてこれを解決する能力を身に付けている。

教 育 課 程
—薬 学 専 攻〔博士課程〕—

研 分 野 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コ ー ド	配 当 年 次	単位数			週時間数		担 当 者	履 修 方 法
					必 修	選 択	自 由	前 期	後 期		
分 子 生 命 制 御 学 分 野	分子代謝制御学特論	L	H72300	1後		2			2	教 授 赤木 玲子 准教授 佐藤雄一郎	講義・演習18単位以上, 特別研究14単位(合計32単位以上) (1) 必修講義科目「特論」: 両分野から各1科目, 合計2科目(4単位) (2) 選択講義科目「特論」及び選択演習科目「演習」: 5科目(10単位)以上 (3) 必修科目「演習」: 両分野から各1科目, 合計2科目(4単位) (4) 必修科目「特別研究」: (14単位) 特別研究14単位の成果をまとめた博士論文を提出して審査及び試験に合格すること。
	分子構造調節学特論	L	H72010	1後		2			2	教 授 松野 研司	
	分子細胞生物学特論	L	H72100	2後		2			2	准教授 久保 貴紀	
	分子薬理学特論	L	H72400	1前	2			2		准教授 近藤 慎一	
	脂質分子生物学特論	L	H35500	2前		2		2		教 授 徳村 彰	
	分子神経科学特論	L	H72150	2前		2		2		准教授 近藤 慎一	
	分子生命制御学演習	S	H72200	3前	2			2		教 授 赤木 玲子 教 授 徳村 彰 准教授 近藤 慎一 准教授 佐藤雄一郎	
病 態 解 析 治 療 学 分 野	病理病態学特論	L	H71400	2前		2		2		教 授 瀬山 敏雄 教 授 藤原佐枝子	
	病態薬物学特論	L	H71300	1後		2			2	教 授 中西 博	
	がん医療薬学特論	L	H15600	2後		2			2	教 授 瀬山 敏雄	
	病態微生物学特論	L	H71200	1後		2			2	教 授 森本金次郎 教 授 西村 基弘	
	医療情報解析学特論	L	H01040	1前	2			2		教 授 高野 幹久	
	医薬品品質評価学特論	L	H01050	2前		2		2		教 授 西 博行 教 授 稲垣 昌宣 教 授 的場 康幸	
	薬効評価学特論	L	H80000	2後		2			2	教 授 中西 博	
	漢方治療学特論	L	H15955	2後		2			2	教 授 大塚 英昭	
	病態解析治療学演習	S	H71100	3後	2				2	教 授 大塚 英昭 教 授 高野 幹久	
	臨床薬学演習	S	H83000	4前		2		2		教 授 中西 博 教 授 西村 基弘 教 授 高野 幹久	
特 別 研 究		P	H53260	1～3通 4前	14			16	12	教 授 赤木 玲子 教 授 徳村 彰 教 授 瀬山 敏雄 教 授 藤原佐枝子 教 授 森本金次郎 教 授 西 博行 教 授 中西 博 教 授 大塚 英昭 教 授 稲垣 昌宣 教 授 西村 基弘 教 授 松野 研司 教 授 高野 幹久 教 授 的場 康幸 准教授 近藤 慎一 准教授 久保 貴紀	

履修要項

薬学研究科

博士課程は、4年の課程である。

1) 修了のための必要条件

(1) 修業年限

博士課程の修業年限は4年とする。在学期間は、特例を除き、8年を超えることはできない。

(2) 在学期間延長

学生が標準修業年限以上在学して所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受け、なお課程修了に至らない者が、博士論文作成のため引き続き在学期間を延長しようとするときは、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

この場合、延長期間中の単位の修得は認められない。

なお、在学期間の延長及び延長期間の更新は1年ごととし、願い出は、2月20日までとする。

(3) 修了要件

博士課程に4年以上在学し、専攻で定める授業科目を32単位以上修得し、必要な研究指導を受けた上、博士課程の目的に応じ、博士の学位論文についての研究の成果（論文・報）の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げたと認める者については、3年以上在学すれば足りるものとする。

(4) 学位

博士課程を修了した者には、博士（薬学）の学位を授与する。

2) 研究指導

(1) 研究指導教員の決定

(a) 研究科長は、学生が入学した後、速やかに各学生の主研究指導教員及び副研究指導教員（以下「研究指導教員等」という。）を決定するものとする。

(b) 研究指導教員等の変更は、原則として認めない。やむを得ず変更する場合は、学長に「研究指導教員等変更申請書」を提出し、研究科委員会の承認を得るものとする。

(2) 研究課題等の決定

学生は、入学年度の4月30日までに、研究指導教員等の指導を受けて研究課題名及び研究計画概要を提出するものとする。

(3) 研究指導

(a) 個別指導

研究指導教員等は、あらかじめ定めた期間に、定期的に学生の研究内容及び研究経過に関する報告事項を踏まえて、研究指導を行う。

なお、研究科委員会が教育研究上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることができる。

(b) 集団指導

学生の研究経過発表会を毎年度1回以上開催し、研究科担当の教員及び学生の質疑を通して、学生の研究の深化と視野拡大に努める。

3) 授業科目の履修方法

【単位の基準】

(1) 授業科目の単位は次の基準による。

「特論」、「演習」は、授業15時間をもって1単位とする。

「特別研究」は、授業30時間をもって1単位とする。

(1) 学生が本学大学院に入学する前の既修得単位（科目等履修生として習得した単位を含む。）及び本学入学後、他の大学院において履修した授業科目について修得した単位は、研究科委員会が教育研究上有益と認めた場合は、本学の授業科目との対応に留意し、8単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとしなすことができる。（安田女子大学大学院既修得単位認定内規参照）

【履修方法】

選択講義科目（特論）及び選択演習科目（演習）については、研究指導教員等の指導のもとに授業科目を選択し、履修登録の上、所定の単位を履修するものとする。研究指導教員等の担当する「特別研究」は、博士の学位論文提出の要件として必修とする。

4) 学位論文

- (1) 博士論文の審査を申請することができる学生は、博士論文の作成等に対する指導等を受けている者で、次のすべてに該当するものとする。
 - (a) 博士論文中間報告書の内容が可と決定された学生
 - (b) 既に所定の単位を修得している学生（博士論文の審査が終了する時点までに所定の単位を修得する見込みがあると認められた学生を含む。）
 - (c) 学術専門誌に筆頭著者として発表した論文が1報以上あること。（安田女子大学学位規程，安田女子大学大学院における学位の申請手続等に関する細則参照）
- (2) 博士論文中間報告書は，研究科長等の確認を経て，第3年次の9月30日までに提出するものとする。（安田女子大学大学院における学位の申請手続等に関する細則参照）
- (3) 博士論文は，研究科長等の確認を経て，必要書類を添えて10月31日までに提出するものとする。（安田女子大学学位規程，安田女子大学大学院における学位の申請手続等に関する細則参照）

5) 最終試験

- (1) 最終試験は，審査委員によって筆記又は口頭により行う。
- (2) 最終試験は，学位論文の内容及びこれに関連ある専門分野の科目について行う。

6) 成績評価

- (1) 履修した授業科目の単位認定は，試験又は研究報告によるものとする。
- (2) 授業科目の成績の評価は，秀，優，良，可，不可の5段階の評語をもって表し，秀，優，良，可をそれぞれ合格とし，不可を不合格とする。
- (3) 合格した授業科目については，所定の単位を与える。
- (4) 学位論文及び最終試験の判定の結果は，合格又は不合格で表す。

看護学研究科

学位授与の方針

教育課程

履修要項

免許・資格の取得

学位授与の方針

看護学研究科 看護学専攻

【博士前期課程】

博士前期課程では、教育目標を達成するために、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらの能力をすべて修得したと認められた学生に対し、修士（看護学）を授与する。

- (1) ヒューマンケアリングの精神に則り、人間の尊厳を守り、相手を理解し、そして愛情や優しさ、誠実性、思いやりを持って人に寄り添う柔しさを実践できる高度専門職業人としての知識・技術・態度を身に付けている。
- (2) 社会のニーズに対応した看護実践の改革・発展に向けて、高度の理論的知識基盤と優れた分析力に裏打ちされた教育的・管理的リーダーシップを発揮する能力を身に付けている。
- (3) 看護領域における課題について、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる高い倫理観と研究遂行能力を身に付けている。

【博士後期課程】

博士後期課程では、教育目標を達成するために、修了時点までに獲得すべき能力を以下のように定め、修了の要件を満たし、これらの能力をすべて修得したと認められた学生に対し、博士（看護学）を授与する。

- (1) 看護ケアの質の向上を目指して、専門分野における最新知識を基に専門性の高い看護ケアを開発できる知識・技術・態度を身に付けている。
- (2) 高い倫理観と学際的・国際的な視野を持って、看護学における課題を自ら発見し、看護学を体系化するために、自立して研究を推進する能力を身に付けている。
- (3) 看護学の発展に重要な示唆を与える関連領域の学術基盤を看護に活用しながら問題の本質や原因について多角的に説明し、なおかつ複数の研究・分析手法を活用しながら問題の本質を解明する能力を身に付けている。
- (4) 研究成果を国内外に向けて積極的に発信できる姿勢と能力を身に付けている。

教 育 課 程
—看護学専攻〔博士前期課程〕—

研 分 野 究 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コード	配当 年次	単 位 数	週時間数		担 当 者	履 修 方 法
						前 期	後 期		
共 通 科 目	看護教育学特論	L	H15584	1後	2		2	教授 山本八千代 准教授 小園由味恵 准教授 中吉 陽子	1 所定の授業科目を30単位 (共通科目7単位, 専門支持科目5単位, 専門科目8単位, 研究科目10単位)以上修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 当該課程の目的に応じ, 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 なお, 専門科目からは, 母子看護学, 成人・高齢者看護学, 看護管理のいずれかにおいて, 当該分野の特論6単位以上・演習2単位以上, 合計8単位以上を修得すること。
	看護研究特論Ⅰ	L	H15585	1前	2	2		教授 永井眞由美 教授 山口 智美	
	看護研究特論Ⅱ	L	H15586	1前	2	2		高瀬美由紀 准教授 吉田 いつこ	
	看護研究特論Ⅲ	L	H15587	1前	2	2		教授 片山 恵子 教授 藤村 欣吾	
	リーダーシップ特論	L	H80500	1後	1		1	教授 高瀬美由紀 教授 山本 雅子 講師 木佐貫尚美	
専 門 支 持 科 目	看護理論特論	L	H15588	1前	2	2		教授 高瀬美由紀 教授 津間 文子 准教授 小園由味恵 講師 藤田 知幸	
	看護倫理・ コンサルテーション特論	L	H15589	1前	2	2		教授 藤村 欣吾 教授 山口 智美 教授 山本 雅子 教授(兼任) 宮崎久美子	2 氏名横の「*」は研究指導補助教員を示す
	人材育成論	L	H47700	1後	2		2	教授 高瀬美由紀 教授 山本 雅子 准教授 中吉 陽子 講師 木佐貫尚美	
	批判的文献講読	S	H71800	1後	1		1	教授 高瀬美由紀 教授 津間 文子 教授 山口 智美 准教授 吉田 いつこ	
	免疫・感染症学特論	L	H78410	1後	2		2	教授 片山 恵子 教授 十河 正典 教授 藤村 欣吾 教授 吉栖 正生	
	フィジカルアセスメント特論	L	H71900	1後	2		2	教授 片山 恵子 教授 十河 正典 教授 藤村 欣吾 教授 吉栖 正生	
								教授 津間 文子 准教授 小坂奈保子	
専 門 科 目	母子看護学	母子看護学特論Ⅰ	L	H78310	1前	2	2	教授 津間 文子 准教授 小坂奈保子	療 養 生 活 支 援
		母子看護学特論Ⅱ	L	H78311	1後	2	2	教授 津間 文子 准教授 小坂奈保子	
		母子看護学特論Ⅲ	L	H78312	1後	2	2	教授 山本八千代	
		母子看護学演習	S	H78300	2前	2	2	教授 津間 文子 教授 山本 八千代 准教授 小坂奈保子	
	成人・高齢者看護学	成人・高齢者看護学特論Ⅰ	L	H48910	1前	2	2	教授 片山 恵子 教授 坪井 敬子 教授 藤村 欣吾 教授 吉栖 正生 講師 藤田 知幸	
		成人・高齢者看護学特論Ⅱ	L	H48911	1前	2	2	教授 山口 智美 准教授 小園由味恵	
		成人・高齢者看護学特論Ⅲ	L	H48912	1後	2	2	教授 永井眞由美 准教授 吉田 いつこ	
		成人・高齢者看護学特論Ⅳ	L	H48913	1後	2	2	教授 十河 正典 教授 片山 恵子 教授 坪井 敬子 教授 藤村 欣吾 教授 吉栖 正生 講師 藤田 知幸	
		成人・高齢者看護学演習Ⅰ	S	H48900	2前	2	2	教授 十河 正典 教授 永井眞由美 教授 山口 智美 准教授 小園由味恵 准教授 吉田 いつこ	
		成人・高齢者看護学演習Ⅱ	S	H48901	2前	2	2	教授 高瀬美由紀 教授 山本 雅子 准教授 小坂奈保子 准教授 中吉 陽子 講師 木佐貫尚美	
		看護管理特論Ⅰ	L	H15581	1前	2	2	教授 高瀬美由紀 教授 山本 雅子 准教授 小坂奈保子 准教授 中吉 陽子 講師 木佐貫尚美	
		看護管理特論Ⅱ	L	H15582	1後	2	2	教授 高瀬美由紀 教授 山本 雅子 准教授 小坂奈保子 准教授 中吉 陽子 講師 木佐貫尚美	
	看護管理	看護管理特論Ⅲ	L	H15583	1後	2	2	教授 高瀬美由紀 教授 山本 雅子 准教授 小坂奈保子 准教授 中吉 陽子 講師 木佐貫尚美	
		看護管理演習	S	H15580	2前	2	2	教授 高瀬美由紀 教授 山本 雅子 准教授 小坂奈保子 准教授 中吉 陽子 講師 木佐貫尚美	
								教授 高瀬美由紀 教授 山本 雅子 准教授 小坂奈保子 准教授 中吉 陽子 講師 木佐貫尚美	
								教授 高瀬美由紀 教授 山本 雅子 准教授 小坂奈保子 准教授 中吉 陽子 講師 木佐貫尚美	

教 育 課 程
—看護学専攻〔博士前期課程〕—

研 分 野 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コード	配当 年次	単 位 数	週時間数		担 当 者	履 修 方 法
						前 期	後 期		
研 究 科 目	看護学特別研究Ⅰ	S	H15560	1前	2	2		教授 大山 義彦 教授 片山 恵子 教授 木村 康浩 教授 高瀬美由紀 教授 津間 文子 教授 十河 正典 教授 永井眞由美 教授 藤村 欣吾 教授 山口 智美 教授 山本 雅子 教授 山本八千代 教授 吉栖 正生 准教授 小園由味恵 准教授 小坂奈保子 * 准教授 中吉 陽子 * 准教授 吉田 いつこ * 講 師 木佐貫尚美 講 師 藤田 知幸	
	看護学特別研究Ⅱ	S	H15561	1後	2		2	教授 大山 義彦 教授 片山 恵子 教授 木村 康浩 教授 高瀬美由紀 教授 津間 文子 教授 十河 正典 教授 永井眞由美 教授 藤村 欣吾 教授 山口 智美 教授 山本 雅子 教授 山本八千代 教授 吉栖 正生 准教授 小園由味恵 准教授 小坂奈保子 * 准教授 中吉 陽子 * 准教授 吉田 いつこ * 講 師 木佐貫尚美 講 師 藤田 知幸	
	看護学特別研究Ⅲ	S	H15562	2前	3	3		教授 大山 義彦 教授 片山 恵子 教授 木村 康浩 教授 高瀬美由紀 教授 津間 文子 教授 十河 正典 教授 永井眞由美 教授 藤村 欣吾 教授 山口 智美 教授 山本 雅子 教授 山本八千代 教授 吉栖 正生 准教授 小園由味恵 准教授 小坂奈保子 * 准教授 中吉 陽子 * 准教授 吉田 いつこ * 講 師 木佐貫尚美 講 師 藤田 知幸	
	看護学特別研究Ⅳ	S	H15563	2後	3		3	教授 大山 義彦 教授 片山 恵子 教授 木村 康浩 教授 高瀬美由紀 教授 津間 文子 教授 十河 正典 教授 永井眞由美 教授 藤村 欣吾 教授 山口 智美 教授 山本 雅子 教授 山本八千代 教授 吉栖 正生 准教授 小園由味恵 准教授 小坂奈保子 * 准教授 中吉 陽子 * 准教授 吉田 いつこ * 講 師 木佐貫尚美 講 師 藤田 知幸	

教 育 課 程
—看護学専攻〔博士後期課程〕—

研 究 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コード	配 当 年次	単 位 数	週 時 間 数		担 当 者	履 修 方 法
						前 期	後 期		
専 門 科 目	看護学発展推進特講	L	H15571	1前	2	2		教授 片山 恵子 教授 高瀬美由紀 教授 津間 文子 教授 十河 正典 教授 永井眞由美 教授 山口 智美 教授 山本八千代 教授 吉栖 正生 准教授 吉田 いつこ 講師 藤田 知幸	1 所定の14単位(専門科目4単位, 研究科目10単位)を修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 博士論文を在学中に提出して, その審査及び最終試験に合格すること。 2 氏名横の「*」は研究指導補助教員を示す。
	看護学発展推進演習	S	H15570	1後	2		2	教授 片山 恵子 教授 津間 文子 教授 十河 正典 教授 永井眞由美 教授 山口 智美 教授 山本八千代 教授 吉栖 正生 准教授 吉田 いつこ 講師 藤田 知幸	
研 究 科 目	看護学特殊研究Ⅰ	S	H15550	1前	1	1		教授 大山 義彦 教授 片山 恵子 教授 木村 康浩 教授 清水 利朗 教授 高瀬美由紀 教授 津間 文子 教授 十河 正典 教授 永井眞由美 教授 藤村 欣吾 教授 山口 智美 教授 山本八千代 教授 吉栖 正生 准教授 吉田 いつこ 講師 藤田 知幸	* *
	看護学特殊研究Ⅱ	S	H15551	1後	1		1	教授 大山 義彦 教授 片山 恵子 教授 木村 康浩 教授 清水 利朗 教授 高瀬美由紀 教授 津間 文子 教授 十河 正典 教授 永井眞由美 教授 藤村 欣吾 教授 山口 智美 教授 山本八千代 教授 吉栖 正生 准教授 吉田 いつこ 講師 藤田 知幸	* *
	看護学特殊研究Ⅲ	S	H15552	2前	2	2		教授 大山 義彦 教授 片山 恵子 教授 木村 康浩 教授 清水 利朗 教授 高瀬美由紀 教授 津間 文子 教授 十河 正典 教授 永井眞由美 教授 藤村 欣吾 教授 山口 智美 教授 山本八千代 教授 吉栖 正生 准教授 吉田 いつこ 講師 藤田 知幸	* *
	看護学特殊研究Ⅳ	S	H15553	2後	2		2	教授 大山 義彦 教授 片山 恵子 教授 木村 康浩 教授 清水 利朗 教授 高瀬美由紀 教授 津間 文子 教授 十河 正典 教授 永井眞由美 教授 藤村 欣吾 教授 山口 智美 教授 山本八千代 教授 吉栖 正生 准教授 吉田 いつこ 講師 藤田 知幸	* *

教 育 課 程
—看護学専攻〔博士後期課程〕—

研 分 野 等	授 業 科 目	授 業 形 態	科 目 コ ー ド	配 当 年 次	単 位 数	週時間数		担 当 者	履 修 方 法
						前 期	後 期		
研 究 科 目	看護学特殊研究Ⅴ	S	H15554	3前	2	2		教授 大山 義彦 教授 片山 恵子 教授 木村 康浩 教授 清水 利朗 教授 高瀬美由紀 教授 津間 文子 教授 十河 正典 教授 永井眞由美 教授 藤村 欣吾 教授 山口 智美 教授 山本八千代 教授 吉栖 正生 准教授 吉田 いつこ 講師 藤田 知幸	*
	看護学特殊研究Ⅵ	S	H15555	3後	2		2	教授 大山 義彦 教授 片山 恵子 教授 木村 康浩 教授 清水 利朗 教授 高瀬美由紀 教授 津間 文子 教授 十河 正典 教授 永井眞由美 教授 藤村 欣吾 教授 山口 智美 教授 山本八千代 教授 吉栖 正生 准教授 吉田 いつこ 講師 藤田 知幸	*

履修要項

看護学研究科

博士課程は、前期 2 年の課程（以下「博士前期課程」という。）及び後期 3 年の課程（以下「博士後期課程」という。）に区分し、博士前期課程は修士課程として取り扱う。

1) 修了のための必要条件

(1) 修業年限

博士課程の標準修業年限は 5 年とし、博士前期課程の修業年限は 2 年、博士後期課程の修業年限は 3 年とする。

在学期間は、特例を除き、博士前期課程は 4 年、博士後期課程は 6 年を超えることはできない。

(2) 在学期間延長

学生が標準修業年限以上在学して所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受け、なお課程修了に至らない者で、修士論文若しくは特定の課題についての研究の成果（以下「修士論文等」という。）又は博士論文作成のため引き続き在学期間を延長しようとするときは、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

この場合、延長期間中の単位の修得は認められない。

なお、在学期間の延長及び延長期間の更新は 1 年ごととし、願い出は、2 月 20 日までとする。

(3) 修了要件

【博士前期課程】

博士前期課程に 2 年以上在学し、看護学専攻で定める授業科目を 30 単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士前期課程の目的に応じ、修士論文等の審査及び最終試験に合格しなければならない。

【博士後期課程】

博士後期課程に 3 年以上在学し、看護学専攻で定める授業科目を 14 単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。ただし、在学期間に関しては、研究科委員会が優れた研究業績を上げたと認める学生については、大学院に 3 年（博士前期課程に 2 年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における 2 年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

(4) 学位

博士前期課程を修了した者には修士（看護学）の学位を、博士後期課程を修了した者には、博士（看護学）の学位を授与する。

2) 研究指導

(1) 研究指導教員の決定

(a) 研究科長は、学生が入学した後、速やかに各学生ごとの主研究指導教員及び副研究指導教員（以下「研究指導教員等」という。）を決定するものとする。

(b) 研究指導教員等の変更は原則として認めない。やむを得ず変更を必要とする場合は、学長に「研究指導教員等変更申請書」を提出し、研究科委員会の承認を得るものとする。

(2) 研究課題等の決定

【博士前期課程】

学生は、入学年度の 4 月 30 日までに、研究指導教員等の指導を受けて研究課題名を提出するものとする。

【博士後期課程】

学生は、入学年度の 4 月 30 日までに、研究指導教員等の指導を受けて研究課題名及び研究計画概要を提出するものとする。

(1) 研究指導

(a) 個別指導

研究指導教員等は、あらかじめ定めた時間帯に、定期的に学生の研究内容及び研究経過に関する報告事項を踏まえて、研究指導を行う。

なお、研究科委員会が教育研究上有益と認めるときは、他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることを認めることができる。ただし、博士前期課程の学生について認める場合は、当該研究指導を受ける期間は 1 年を超えないものとする。

(b) 集団指導

学生の研究経過発表会を毎年度 1 回以上開催し、研究科担当の教員及び学生の質疑を通して、学生の研究の深化及び視野拡大に努める。

3) 授業科目の履修方法

【単位の基準】

- (1) 授業科目の単位は、次の基準による。
「特論」、「人材育成論」、「批判的文献講読」（博士前期課程）及び「特講」（博士後期課程）は、授業 15 時間をもって 1 単位とする。
「演習」は、授業 15 時間をもって 1 単位とする。
「特別研究」（博士前期課程）及び「特殊研究」（博士後期課程）は、授業 15 時間をもって 1 単位とする。
- (2) 学生が本学大学院に入学する前の既修得単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）及び本学入学後、他の大学院において履修した授業科目について修得した単位は、研究科委員会が教育研究上有益と認めた場合は、本学の授業科目との対応に留意し、博士前期課程においては 15 単位を、博士後期課程においては 8 単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。（安田女子大学大学院既修得単位認定内規参照）

【博士前期課程の履修方法】

- 授業科目 30 単位以上の単位の履修については、研究指導教員等の指導のもとに授業科目を選択し、履修登録の上、所定の単位を履修するものとする。
- (1) 「看護学特別研究Ⅲ・Ⅳ」は、修士の学位論文提出の要件として 2 年次の必修とする。なお、「看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ」は、「看護学特別研究Ⅲ・Ⅳ」履修の基礎要件として 1 年次の必修とする。
 - (2) 大学院設置基準第 14 条に定める教育方法の特例の適用を希望する者の履修方法は、別に定める。（安田女子大学大学院規則、安田女子大学大学院における履修手続等に関する細則参照）
 - (3) 博士前期課程修了（標準修業年限 2 年）の基本スケジュールは、標準修業年限別のスケジュールを参照すること。

【博士後期課程の履修方法】

- 授業科目 14 単位以上の単位の履修については、博士前期課程の履修方法に準ずるものとする。
- (1) 「看護学特殊研究Ⅴ・Ⅵ」は、博士後期課程の学位論文提出の要件として 3 年次の必修とする。また「看護学特殊研究Ⅲ・Ⅳ」は、「看護学特殊研究Ⅴ・Ⅵ」履修の基礎要件として 2 年次の必修とし、「看護学特殊研究Ⅰ・Ⅱ」は、「看護学特殊研究Ⅲ・Ⅳ履修」の基礎要件として 1 年次の必修とする。
 - (2) 博士前期課程の授業科目の履修を希望する者の履修方法は、別に定める。（安田女子大学大学院における履修手続等に関する細則参照）
 - (3) 博士後期課程修了（標準修業年限 3 年）の基本スケジュールは、標準修業年限別のスケジュールを参照すること。

4) 学位論文

【修士の学位論文】

- (1) 修士論文等の審査を申請することができる学生は、修士論文等の作成等に対する指導等を受けている者で、次のすべてに該当するものとする。
 - (a) 既に所定の単位を修得している学生（修士論文等の審査が終了する時点までに所定の単位を修得する見込みがあると認められた学生を含む。）
 - (b) 修士論文等題目の決定を受けている学生
- (2) 修士論文等の題目は、研究指導教員等の確認を経て修士論文等を提出しようとする年度の 6 月 30 日までに学長（教務課）に提出するものとする。
修士論文等の題目提出後、題目に変更が生じた者は、研究指導教員等の確認を経て 12 月 20 日までに届け出るものとする。
- (3) 修士論文等は、研究指導教員等の確認を経て、修士論文等審査願・誓約書を添えて 1 月 10 日までに学長（教務課）に提出するものとする。
- (4) 修士論文等の審査は、研究科委員会で選出された研究指導教員のうちから 3 名以上の審査委員により行う。
- (5) 修士論文等は、専攻で定める様式に従って作成すること。

【博士の学位論文】

- (1) 博士論文の審査を申請することができる学生は、博士論文の作成等に対する指導等を受けている者で、次のすべてに該当するものとする。
 - (a) 博士論文中間報告書の内容が可と決定された学生
 - (b) 既に所定の単位を修得している学生（博士論文の審査が終了する時点までに所定の単位を修得する見込みがあると認められた学生を含む。）
 - (c) 学術専門誌に筆頭著者として発表した論文が 1 報以上あること。（安田女子大学学位規程、安田女子大学大学院における学位の申請手続等に関する細則参照）
- (2) 博士論文中間報告書は、研究科長等の確認を経て、第 2 年次の 9 月 30 日までに提出するものとする。（安田女子大学大学院における学位の申請手続等に関する細則参照）

- (3) 博士論文は、研究科長等の確認を経て、必要書類を添えて10月31日までに提出するものとする。(安田女子大学学位規程、安田女子大学大学院における学位の申請手続等に関する細則参照)

5) 最終試験

- (1) 最終試験は、審査委員によって筆記又は口頭により行う。
(2) 最終試験は、学位論文の内容及びこれに関連ある専門分野の科目について行う。

6) 成績評価

- (1) 履修した授業科目の単位認定は、試験又は研究報告によるものとする。
(2) 授業科目の成績の評価は、秀、優、良、可、不可の5段階の評語をもって表し、秀、優、良、可をそれぞれ合格とし、不可を不合格とする。
(3) 合格した授業科目については、所定の単位を与える。
(4) 学位論文及び最終試験の判定の結果は、合格又は不合格で表す。

免許・資格の取得

Ⅰ．認定看護管理者

1) 認定看護管理者とは

認定看護管理者とは日本看護協会認定看護管理者認定審査に合格し、管理者として優れた資質を持ち、多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、創造的に組織を発展させることができる能力を有すると認められた者をいう（日本看護協会 HP より）。

2) 資格の取得

「認定看護管理者」の資格を取得するためには、看護師免許を取得後、実務経験が通算 5 年以上であること、そのうち通算 3 年以上は看護師長相当以上の看護管理の経験があること、そして以下（1）または（2）のいずれかの要件を満たし、且つ日本看護協会が実施する認定看護管理者認定審査に合格することが必要である（2022 年度から適用）。

<要件>

- （1）認定看護管理者教育課程サードレベルを修了している者
- （2）看護管理に関連する学問領域の修士以上の学位を取得している者

※認定看護管理者認定審査受験資格要件や審査の流れについては、日本看護協会ホームページで確認すること。

3) 認定看護管理者受験資格取得のための授業科目

日本看護協会では、上記資格認定のために必要な大学院での履修科目を指定していない。しかし、受験資格を得るためには、看護学研究科博士前期課程に入学し、看護管理コースで以下の科目を選択履修することが望ましい。

科目区分	領域	授 業 科 目	単位数
共通科目	共通	看護教育学特論	2
		看護研究特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲのうち、いずれか 2 科目	4
		リーダーシップ特論	1
専門支持科目	共通	看護理論特論	2
		批判的文献講読	1
		人材育成論	2
専門科目	看護管理コース	看護管理特論Ⅰ	2
		看護管理特論Ⅱ	2
		看護管理特論Ⅲ	2
		看護管理演習	2
研究科目	共通	看護学特別研究Ⅰ	2
		看護学特別研究Ⅱ	2
		看護学特別研究Ⅲ	3
		看護学特別研究Ⅳ	3
		合 計	30